CG-WLBARGM

取扱説明書

Y613-09331-01 Rev.B

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGM を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例： OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

こんなときには

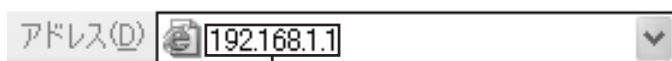
このPARTでは、本商品をより便利にご利用いただくための設定方法について説明していますが、設定を行うには本商品に接続されているパソコンが、ネットワークに接続可能な状態であることが必要です。まだ本商品とパソコンを接続していない場合や、ネットワークに接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」をご覧いただき、接続を行ってください。

設定ユーティリティの起動方法

本商品は設定ユーティリティを使って設定を行います。設定にはWebブラウザを使って行います。設定時には、本商品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行い、Webブラウザには Internet Explorer 5.5 以降をご利用ください。その他の Web ブラウザでは、正常にセットアップが行えない場合があります。

- **本商品を設定する際には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをおすすめいたします。**
- **設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止、起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。**

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

2　アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、[OK] をクリックします。

- **工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」（P34）をご覧ください。**

4　設定ユーティリティが起動します。

無線LANセキュリティを設定するには

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入される恐れがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

【ESSID（Extended Service Set IDentifier)】
無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【ステルスAP】
本商品のESSIDを無線LANアダプタから見えなくすることにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【アクセス制限】
本商品に無線LANでアクセスすることができる無線LANアダプタをMACアドレスで制限します。PCデータベースにＭＡＣアドレスが登録されていない無線LANアダプタは本商品に接続できなくなります。

【WEP（Wired Equivalent Privacy)】
通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bitの２種類から任意で暗号キーを作成します。

【WPA（Wi-Fi Protected Access)】
通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。

【WPA2（Wi-Fi Protected Access 2)】
WPA2は、Wi-Fi Allianceが2004年９月に発表したWPAの新バージョンです。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128～256Bitの可変調キーを利用しての強力な暗号化が可能です。その他の仕様についてはWPAとほとんど変わらないので、WPAとWPA2との混在した環境で利用できます。

セキュリティ設定は、通信相手の機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。

●ESSIDを設定する

独自のESSIDを設定し、外部から不正侵入される危険が減少させます。設定ユーティリティを起動し、次の手順を行います。

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

3 「ESSID」に設定したい文字列を半角英数字で入力します。

4 ［保存］をクリックします。

5 本商品に設定したESSIDと同じ文字列を、接続する無線LANアダプタに設定します。

無線LANアダプタのESSID設定については、ご使用の無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

●ステルスAPを設定する

ステルスAPを設定すると、本商品のESSIDを無線LANアダプタから検索できなくなります。ステルスAPを設定するには、次の手順を行います。

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

3 「ステルスAP」の「有効にする」にチェックを付けます。

4 ［保存］をクリックします。

本商品と同じESSIDを設定している無線LANアダプタからは、本商品のESSIDを確認することができます。

●アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線 LAN アダプタを MAC アドレスで制限します。

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5) をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

3 「アクセス制限」の「選択した無線クライアントのみ接続可」にチェックを付けます。

4 ［クライアントの選択］をクリックします。

5 クライアントリストに現在接続可能な無線LANアダプタのMACアドレスが表示されますので、接続を許可したい無線LANアダプタを選択します。クリックして反転表示すると選択、反転表示されている状態でクリックすると選択を解除することができます。

- ご使用の無線 LAN アダプタの MAC アドレスは、ご使用の無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧になりご確認ください。
- 複数の無線LANアダプタを選択する場合は、「Ctrl」キーを押しながらクリックしてください。
- アクセス制限をしたい無線 LAN アダプタがクライアントリストに表示されない場合は、「PC データベース」(P.80) で無線 LAN アダプタを手動で登録してください。

6 ［保存］ー［終了］の順にクリックします。

●暗号化設定をする

無線LANの通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。

本商品に接続する無線 LAN アダプタでも暗号化の種類に対応している必要があります。

■ WEP を設定する

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5)をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

3 ［セキュリティ］をクリックします。

4 セキュリティ方式で「WEP」を選択します。

5 暗号方式を「64Bit」「128Bit」から選択します。

メモ
・64Bit では、a 〜 f、0 〜 9 半角英数で 10 桁の文字を設定します。
・128Bit では、a 〜 f、0 〜 9 半角英数で 26 桁の文字を設定します。

6 認証方式を「Automatic」、「Open System」、「Shared Key」から選択します。

7 キー１～キー４にａ～f、０～９の半角英数記号を入力します。暗号方式で「64Bit」を選択した場合は 10 桁、「128Bit」を選択した場合は 26 桁の文字を入力します。

メモ
キー文字列に文字を入力し、［コード生成］をクリックすることによって、自動的に生成することもできます。

8 設定が終了したら［保存］をクリックします。

9 本商品と同じ暗号化の設定を接続する無線 LAN アダプタに設定します。

■ WPA-PSK を設定する

1. 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。
2. 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。
3. ［セキュリティ］をクリックします。
4. セキュリティ方式で「WPA-PSK」を選択します。
5. 共有キーに半角英数記号で８～63 文字入力します。

メモ **入力できる半角英数記号は、0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] ˜ ^ _ { ¦ } ˜です。**

6. 認証方式を「TKIP」、「AES」のどちらかを選択します。
7. 設定が終了したら［保存］をクリックします。
8. 本商品と同じ暗号化の設定を接続する無線 LAN アダプタに設定します。

■ WPA2-PSK を設定する

1. 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。
2. 画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。
3. ［Wireless］－［セキュリティ］の順にクリックします。
4. セキュリティ方式で「WPA2-PSK」を選択します。
5. 共有キーに半角英数記号で８～63 文字入力します。

メモ **入力できる半角英数記号は、0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] ˜ ^ _ { ¦ } ˜です。**

6. 設定が終了したら［保存］をクリックします。
7. 本商品と同じ暗号化の設定を接続する無線 LAN アダプタに設定します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは､ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため､本商品にUPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などを行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては､ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本商品の設定が行われます。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5)をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Advanced］ー「その他各種設定］の順にクリックします。

3 マルチPPPoEを使用している場合は、「PPPoE設定」でアカウントを設定し、「UPnPを使用する」にチェックを付けます。マルチPPPoEを使用していない場合は「UPnPを有効にする」と「UPnPを使って本製品の設定を有効にする」にチェックを付けます。

- **Windowsにて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ(UPnP)に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に､Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnP機能はWindows XPでご使用いただけます。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

■ネットワークゲームが使用するポート番号がわかる場合

使用するポート番号、タイプがわかっている場合は、設定ユーティリティで次の設定を行います。

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5)をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Advanced］ー「アドバンスド インターネット」ー「スペシャル・アプリケーション」の順でクリックし、ネットワークゲーム会社より指定されている使用ポート番号とタイプ(プロトコルのタイプ)を設定します。

ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ(プロトコルのタイプ)については、各ネットワークゲーム会社にお問い合わせください。

■ネットワークゲームが使用するポート番号がわからない、または毎回変更される場合

使用するポート番号が不明な場合は、DMZ機能を使います。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5)をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Advanced］－「アドバンスド インターネット」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

〈マルチ PPPoE を使用している場合〉

〈マルチ PPPoE を使用していない場合〉

注意　DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN　Messenger を利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.7.0 以降）に対応しています。ソフトの使用方法は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

NetMeeting を使用するには DMZ 機能を使います。次の手順で設定してください。

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Advanced］ー「アドバンスドインターネット」の順にクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

3　「DMZ を使用する」にチェックを付け、パソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

●MSN Messenger（Ver.7.0以降）

本商品は UPnP に対応しているので、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本商品の設定が行われます。

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Advanced］ー「アドバンスドインターネット」の順にクリックします。

3　「DMZ を使用する」にチェックを付け、パソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

- **MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。**
- **MSN Messenger は Ver. 7.0 で動作確認しております。**
- **対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。**
- **DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。**

外部にサーバを公開するには

●バーチャル サーバを使用する

バーチャル サーバ機能を利用して外部にサーバを公開することができます。公開するには次の手順で設定してください。

■サーバが一覧にある場合

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャル サーバ」の順にクリックします。

3 サーバの種類を一覧から選択します。

4 「有効にする」にチェックを付け、「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

「マルチ PPPoE」を使用している場合は、使用するアカウントを選択します。

■サーバが一覧にない場合

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャルサーバ」の順にクリックします。

3 「有効にする」にチェックを付け、右側の入力欄にサーバの種類の名前を入力します。

メモ **「マルチ PPPoE」を使用している場合は、使用しているアカウントを選択します。**

4 「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

5 「プロトコル」から使用するプロトコルを選択し、「入力ポート番号」と「出力ポート番号」を指定します。

6 ［追加］をクリックします。

●ダイナミックDNSを使用してURLで接続する

ダイナミックDNSとは、インターネット側からドメインネーム（URL）を使用してバーチャル サーバなどに接続することができる機能です。ダイナミックDNSを使用するには、次の手順で設定してください。

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［Advanced］－「ダイナミックDNS」の順にクリックします。

3　ダイナミックDNSサービスの登録をしていない場合は、「ダイナミックDNS」のDDNSの項目にある「DynDNS.org」（無料／英語ページ）または「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）をクリックし、ダイナミックDNSサービスに登録します。すでに「DynDNS.org」または「IvyNetwork」に登録している場合は、登録せずに手順5へお進みください

「DynDNS」、「IvyNetwork」の登録手順の詳しい説明をホームページからご覧になることができます。弊社ホームページ（http://corega.co.jp/）から「製品情報」ー「導入ナビゲーション」お順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください。

- **「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運営するダイナミックDNSサービスについては、弊社でのサポートは対象外となります。**
- **「@Net DDNS」は「＠NetHome」の会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、加入者サポートページよりお申し込みください。**

4　ダイナミックDNSサービスへの登録が完了したら、「ログイン名」、「パスワード」、「ドメイン名」を控えておきます。

5　「ダイナミックDNS」画面に戻り、「DDNSサービス」から登録したダイナミックDNSサービスを選択します。

6　「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン名」を各欄に入力し、［保存］をクリックします。

7　画面左側のメニューから［Status］ー［リセット機能］の順にクリックします。

8　「システムリブート」で［実行］をクリックします。

9　「システムリブートを行います」と表示されるので［OK］をクリックします。

10　ダイアログボックスが表示されますので、［OK］をクリックします。

以上で設定は完了です。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには
（プロバイダと、フレッツ・スクウェア／フレッツ・コネクト／フレッツ・コミュニケーションを利用する）

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション-1のAccount-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション-2のAccount-2」に設定する場合

1　通常のプロバイダの設定を行います。「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［WAN］をクリックし、接続タイプで「マルチPPPoE」を選択して［次へ］をクリックします。

3「マルチ PPPoE」画面で「アカウント 1」をクリックします。

4「セッション選択」は「セッション 1」を選択し、「PPPoE 接続名」に任意の名前を入力します。（例として「アカウント 1」を入力します）。

5「ユーザ名」と「パスワード」の欄にプロバイダなどから通知された値を入力し、［保存］をクリックして本商品を再起動します。

6　再起動が終了したら、次にフレッツ･スクウェアの設定を行います。画面左側のメニューから［WAN］をクリックし、接続タイプから「マルチ PPoE」を選択して、［次へ］をクリックします。

7「マルチ PPPoE」画面で［アカウント 2］をクリックします。

8「セッション選択」は「セッション 2」を選択し「PPoE 接続名」に任意の名前を入力します（例として「アカウント 2」を入力します）。

9「ユーザ名」と「パスワード」は、それぞれ次の表の内容で入力します。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザ名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2005 年 5 月現在）

10「DNS」は「自動設定」を選択します。

11「接続先設定」の「有効」をクリックします。

12［ドメイン追加］をクリックして「接続先設定」画面を表示させます。

13「ドメイン名」に「.flets/」と入力します。

14「接続先設定」画面を閉じて、［追加］をクリックします。

15 本商品が再起動したら設定は終了です。

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定 IP アドレスを、本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバなどを公開することができます。

例：本商品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	XXX.○○○.□□□.113 〜 XXX.○○○.□□□.120
サブネットマスク	255.255.255.◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX.○○○.□□□.115」と設定したい場合

1 「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから［WAN］をクリックし、「WAN 側設定」の「接続タイプ」から「PPPoE／Unnumbered IP」を選択し、［次へ］をクリックします。

3 「PPPoE接続名」、「ユーザー名」、「パスワード」にプロバイダなどから提供された情報を入力します。

4 「IPアドレス」の「Unnumberd IP]をチェックし、表示された「IPアドレス」と「サブネットマスク」の入力欄に、次のように入力します。

・「IP アドレス」→「×××.○○○.□□□.114」
・サブネットマスク→「255.255.255.◆◆◆」

5 「DNS」の「優先 DNS サーバ」をチェックし、「12.34.56.12」と入力します。

6 ［保存］をクリックします。続けて画面左側のメニューから［Home］ー［Log out］の順にクリックし、設定ユーティリティを閉じます。

7 設定するパソコンの IP アドレスを固定します。以下のように変更します。

・「次の IP アドレスを使う」をチェック（Windows XP の場合）
・IP アドレス→「XXX.○○○.□□□.115」（変更する任意の IP アドレス）
・サブネットマスク→「255.255.255.◆◆◆」
・「デフォルトゲートウェイ」→「XXX.○○○.□□□.114」（ルータ IP と同じで可）

・Unnumberedを利用する場合は、LAN側のパソコンに固定IPアドレスを設定する必要があります。
・IP アドレスを変更した後に、本商品の設定ユーティリティを起動する場合は、Web ブラウザのアドレス欄に、変更した IP アドレス（例では「×××.○○○.□□□.114」）を入力してください。

他のパソコンを接続するときは

本商品を利用して複数のパソコンからインターネットを利用するには、接続するパソコンのネットワークを設定する必要がありますので、次の手順を行ってください。設定方法は、OSの種類などご使用になるパソコンの環境により異なりますが、「ネットワークアダプタの設定」と「TCP/IPの設定」は設定前にご確認ください。また、この手順は LAN ケーブルで本商品とパソコンを接続する場合を例としています。

●Windows XPで利用する

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

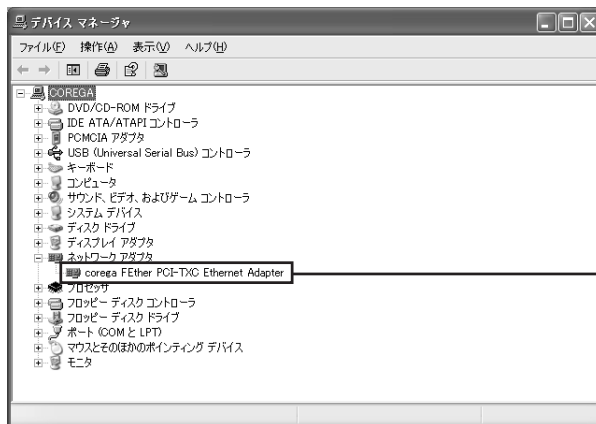
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 「スタート」ー「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　「ハードウェア」タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

5　「デバイスマネージャ」を閉じます。

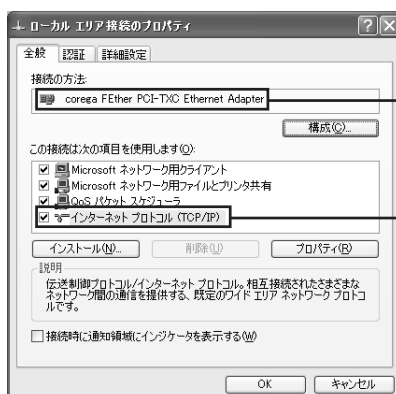
■ TCP/IP プロトコルを確認する

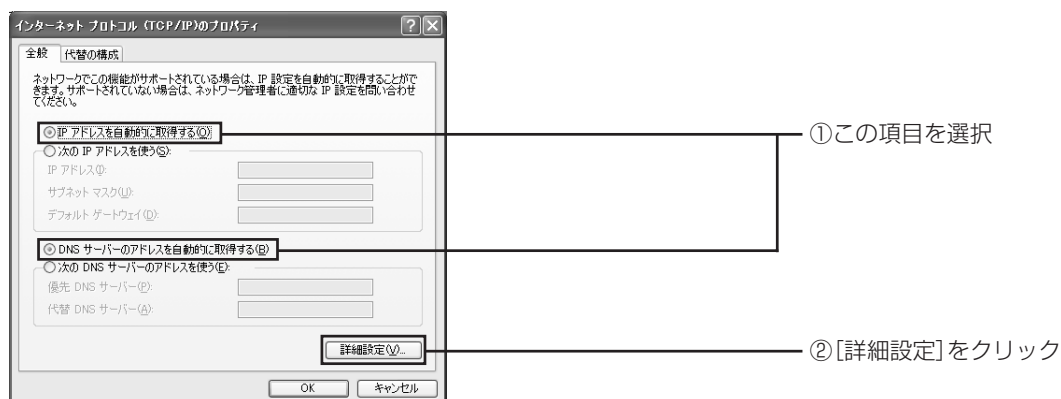
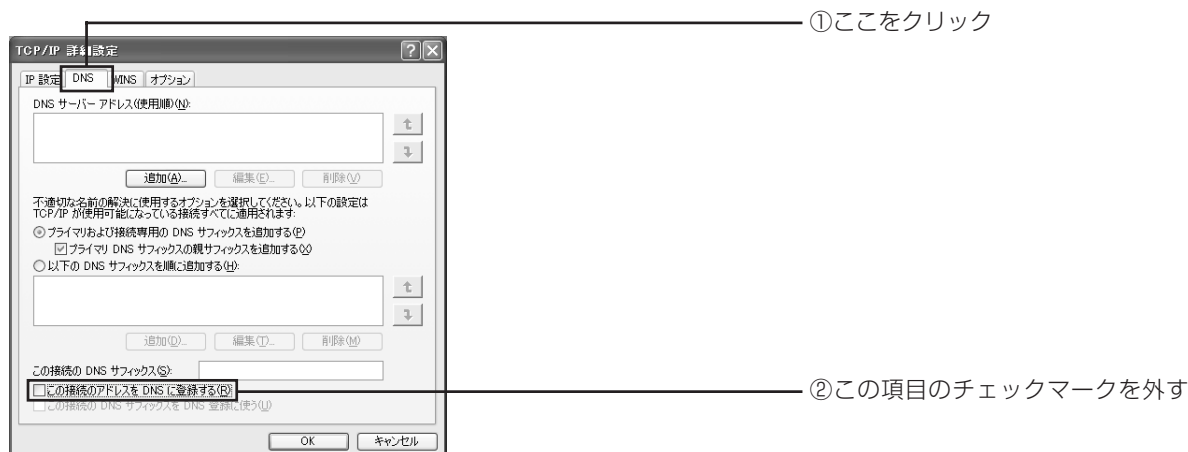
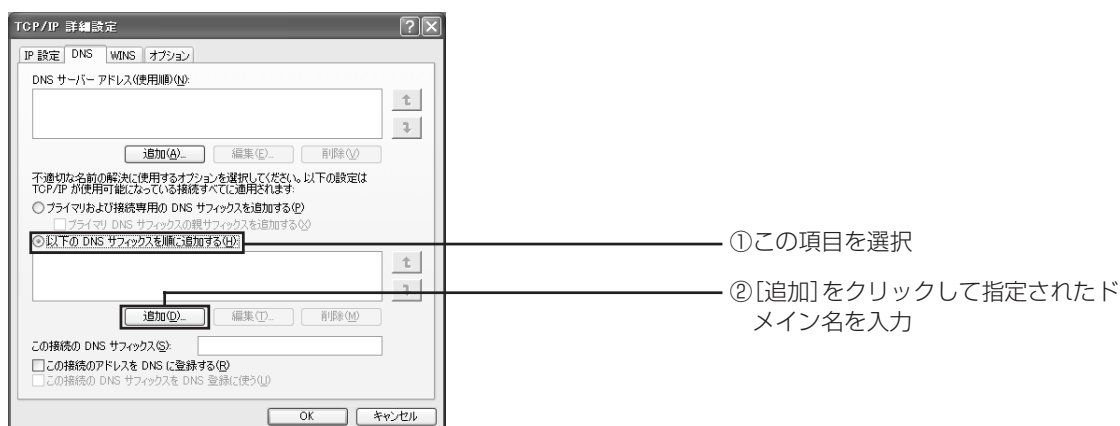
1　「スタート」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5　「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意 **プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［閉じる］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.27）に進みます。

●Windows 2000で利用する

この作業は､｢Administrator｣または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

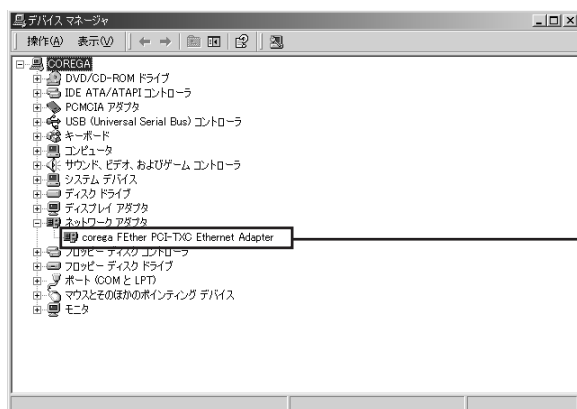
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか､｢デバイスマネージャ｣で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「ハードウェア」 タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

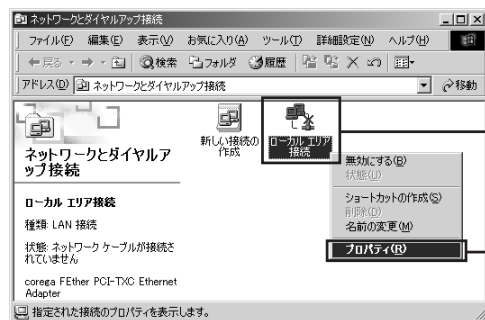
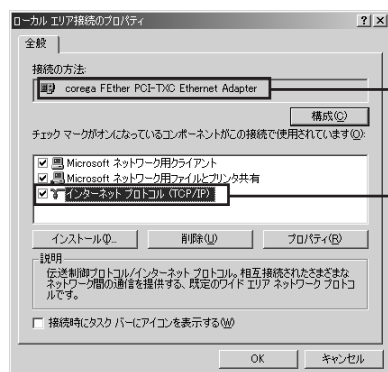
3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

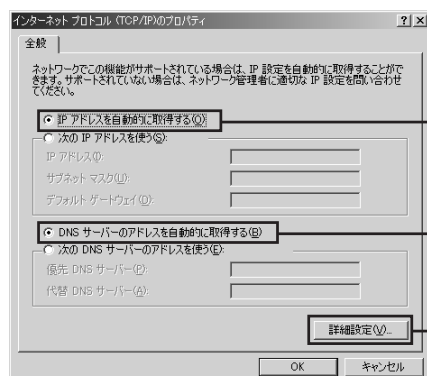
5　「デバイスマネージャ」を閉じます。

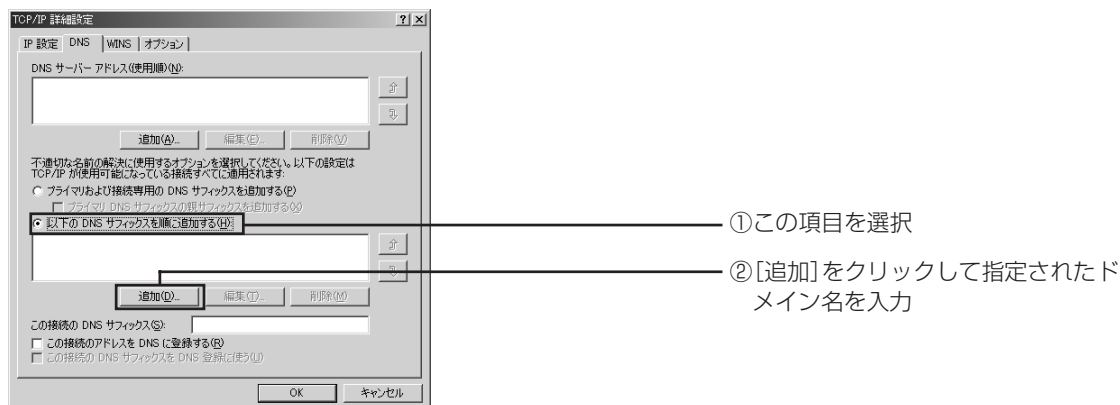
■TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

メモ **「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.23）をご覧ください。**

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.27）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

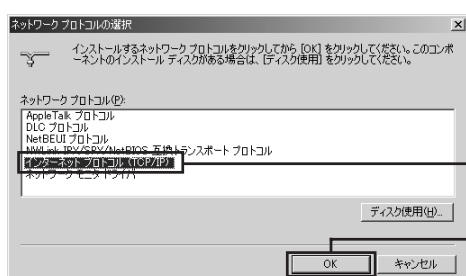
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」 －「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の ［インストール］ をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコ（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.21 ～）からの設定を行ってください。

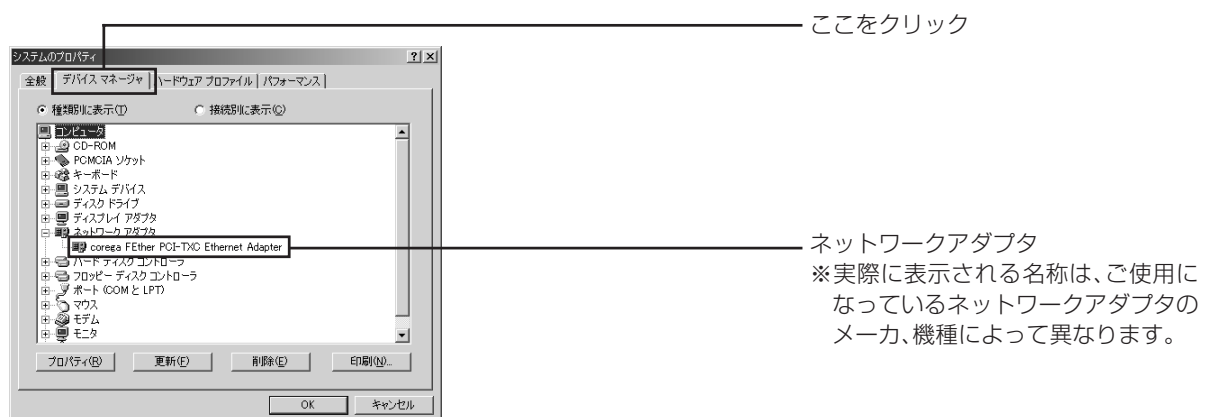
●Windows Me／98SEで利用する

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「コントロールパネル」画面の「ネットワーク」をダブルクリックします。

メモ

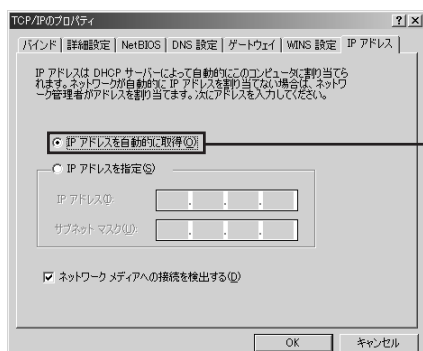
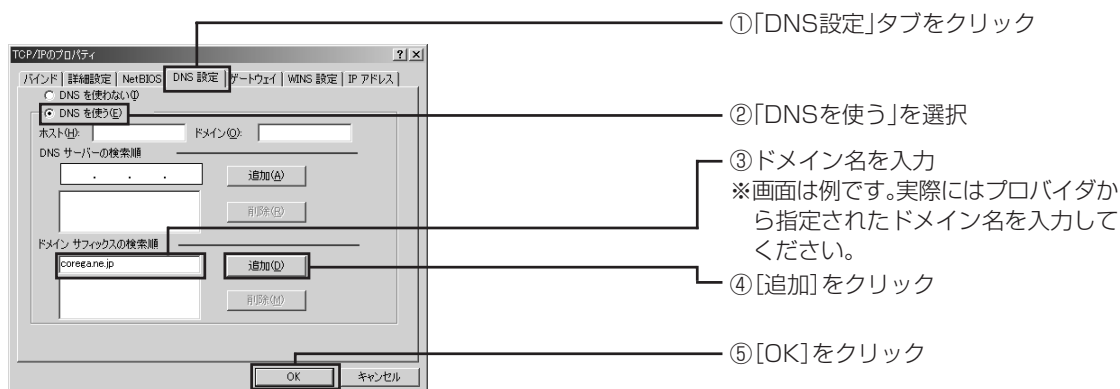
Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。

3　「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.26）をご覧ください。**

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。**

5　「IPアドレス」タブの「IPアドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

メモ

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.27）に進みます。

■TCP/IP をインストールする

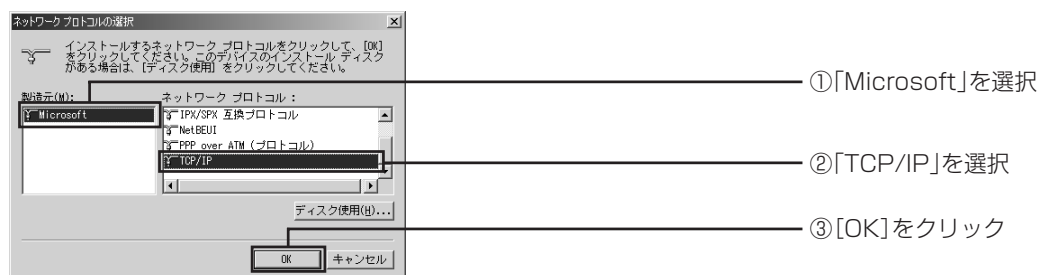
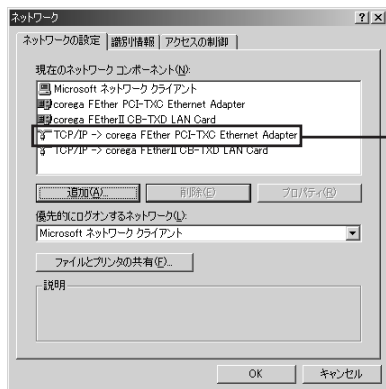
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の画面で、［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確認します。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

メモ　**メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.25～）からの設定を行ってください。

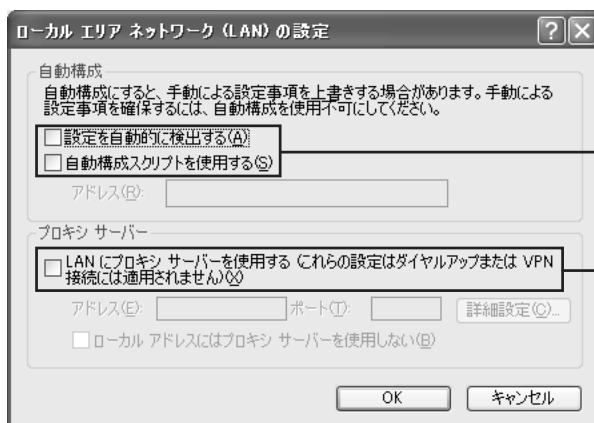
●Webブラウザの設定をする

本商品を利用できるように、Web ブラウザの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他の Web ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧ください。

1 Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。

2 「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3 「LAN の設定」をクリックします。

4 「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5 ［OK］をクリックします。

6 「インターネットオプション」画面で［OK］をクリックします。

次に「パソコンと本商品を接続する」に進みます。

●パソコンと本商品を接続する

・本商品とパソコンを接続する LAN ケーブルの長さは 100m 以内にしてください。
・本商品とパソコンを接続する LAN ケーブルは、100BASE-TX で接続する場合はカテゴリ 5 以上、10BASE-T で接続する場合はカテゴリ 3 以上の LAN ケーブルを使用してください。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面の LAN ポートに LAN ケーブルを接続します（①）。

3 LAN ケーブルのもう一方をパソコンの LAN ポートに接続します（②）。

4 本商品背面の WAN ポートに付属の LAN ケーブルを接続します（③）。

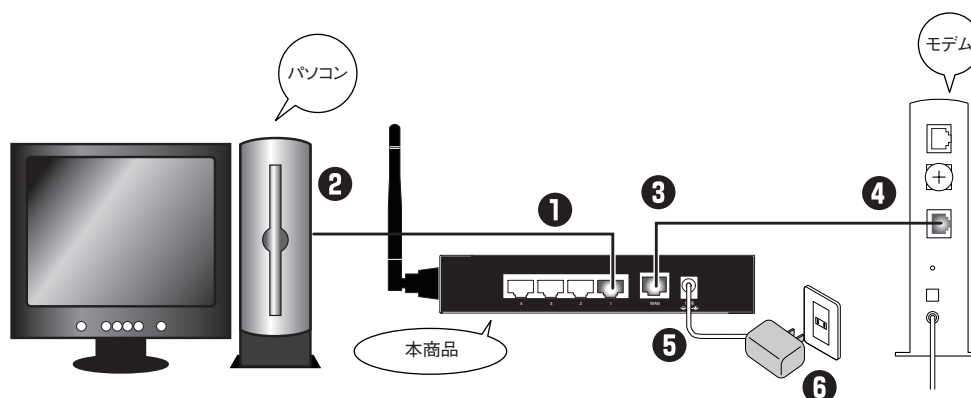
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面の DC ジャックに専用 AC アダプタを接続します（⑤）。

8 本商品の専用 AC アダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥）。本商品前面の Power、WAN の各 LED が点灯していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本商品前面の、ケーブルを接続したポートの LAN LED が点灯していることを確認します。

●パソコン同士をつなげる

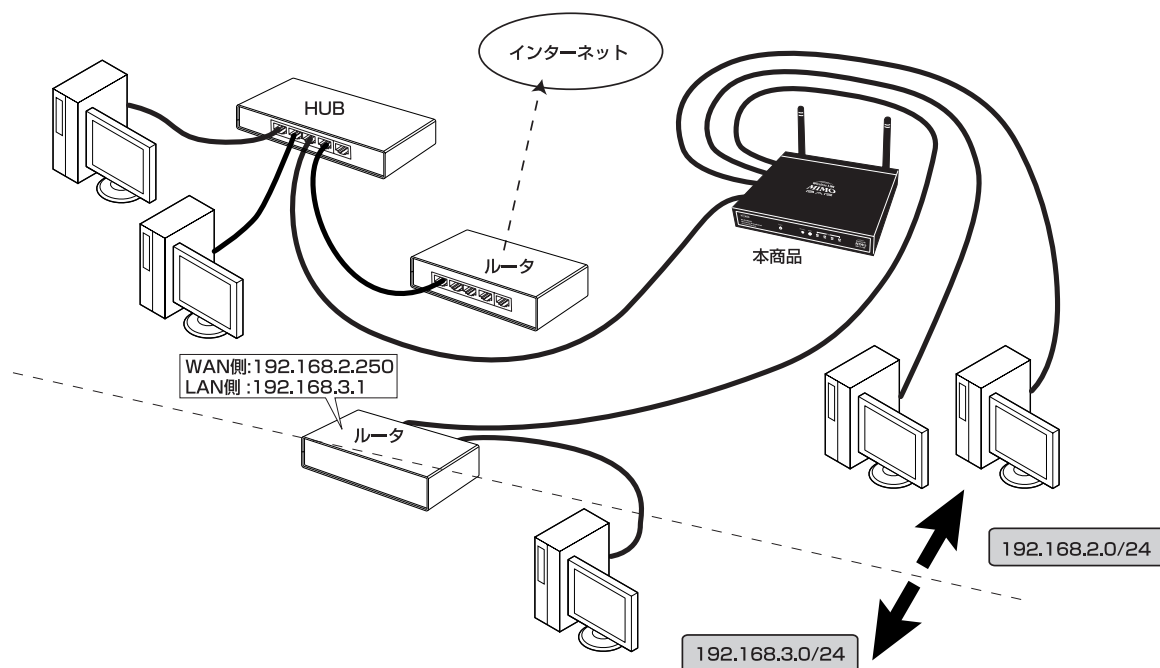
パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行います。本商品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows では Microsoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプをご覧ください。

その他のルーティング設定をするには

ここでは本商品の下位にルータを追加する場合を説明します。

● スタティックルートの設定

隣接するルータがRIPに対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例：「ネットワーク・アドレス：192.168.3.0、サブネットマスク：255.255.255.0」というネットワークを追加する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。
※192.168.3で始まるIPアドレスへの通信はすべて192.168.2.250に転送

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5) をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから [Advanced] ー「ルーティング」の順にクリックし、「RIP V1 を使用する」のチェックを外し、次の設定を行います。

① 「ネットワーク・アドレス」には、通信の宛先となるネットワークアドレスを入力してください。(例:192.168.3.0)

② 「サブネットマスク」には、ネットワークアドレスのサブネットマスクを入力します。(例:255.255.255.0)

③ 「ゲートウェイ」は、経路となるルータの IP アドレスを入力してください。(例:192.168.2.250)

④ 「メトリックス」は、ゲートウェイ欄で指定したルータにデータが届くまでに通過するルータの数です。2 〜 15 の間で設定してください。(例:2)

3 [追加] をクリックし、設定を追加します。

● RIPの設定

LAN側の別途ルータが存在する場合は、そのルーティング経路を本商品に設定する必要があります。本商品はダイナミックルーティングプロトコルである RIP 機能に対応していて、隣接するルータと RIP によって、自動的に経路の情報を交換できます。

メモ **隣接するルータがRIPに対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。設定方法については「スタティックルートの設定」(P.29) をご覧ください。**

1 「設定ユーティリティの起動方法」(P.5) をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2 画面左側のメニューから [Advanced] ー「ルーティング」の順にクリックします。

3　RIP V1 を使用するにチェックを付けます。

4　［保存］をクリックします。

最新のファームウェアを入手してアップデートするには

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社のホームページ（http://www.corega.co.jp/）から入手してください。

- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモしておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

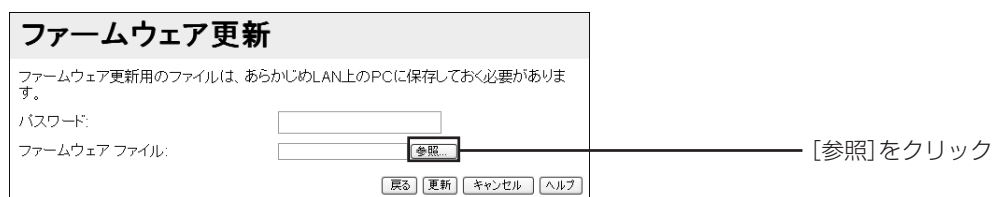
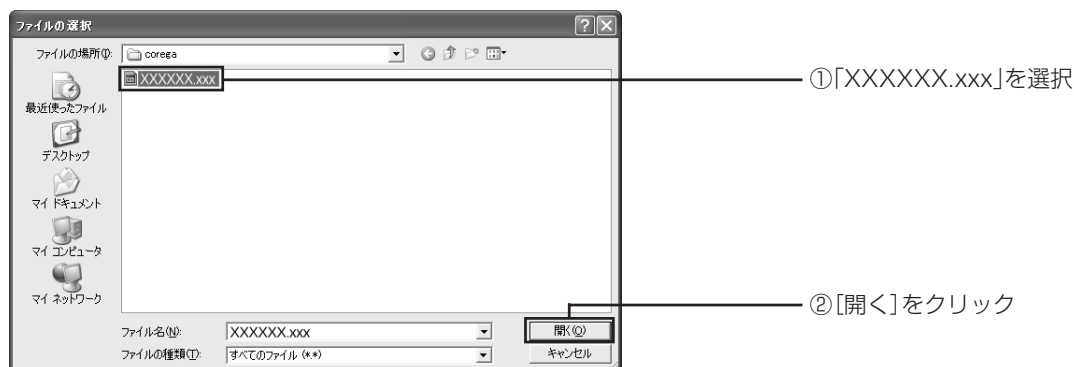
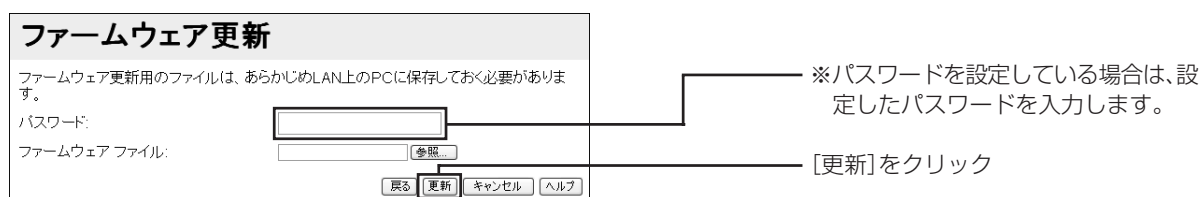
●ファームウェアのアップデート

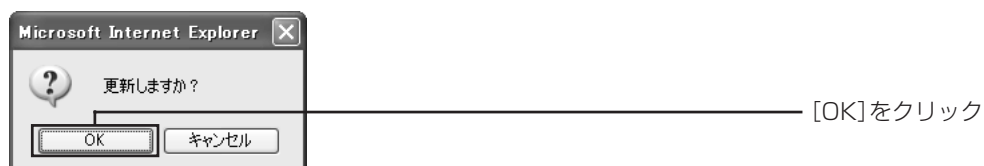
ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

3　［ファームウェア更新］をクリックします。

3　［参照］をクリックします。

4　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］をクリックします。

5　パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから［更新］をクリックします。

6　「更新しますか？　すべてのインターネット接続が切断されます。」と表示されるので、［OK］をクリックします。

7　次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。クリックすると、ファームウェアの更新処理が開始されます。

8　更新作業が終了したら、初期化スイッチを使って本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」（P.38）をご覧ください。

ファームウェアのアップデートの再起動は初期化スイッチを使用してください。

以上でファームウェアの更新は終了です。

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品を工場出荷時の状態に戻してから、再度ファームウェアのアップデートを行ってください。本商品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」(P.38)をご覧ください。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows XP/2000の場合

1 「スタート」-「すべてのプログラム」(Windows 2000の場合は「プログラム」)-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3 IPアドレスを確認します。

●Windows Me/98SEの場合

1 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、[OK] をクリックします。

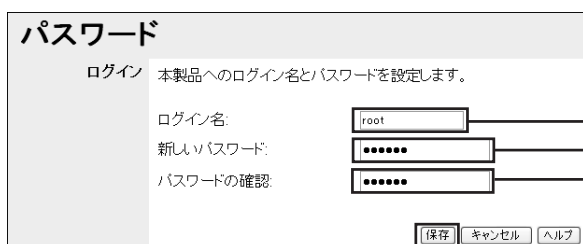
3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［書き換え］をクリックしてください。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Password］をクリックします。

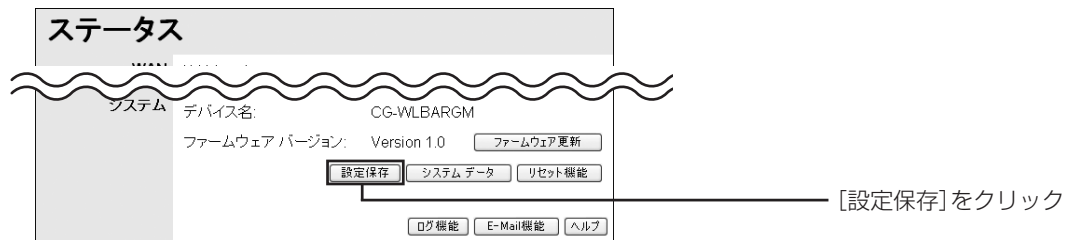
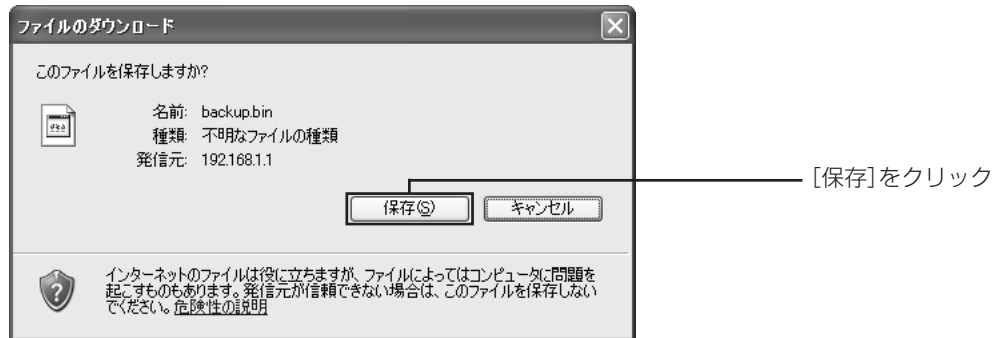
3　管理者ログイン名、管理者ログインパスワード、パスワードの確認にログイン名と新しいパスワードを入力して［保存］をクリックします。

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

現在の設定内容をバックアップし、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

●バックアップを取る

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

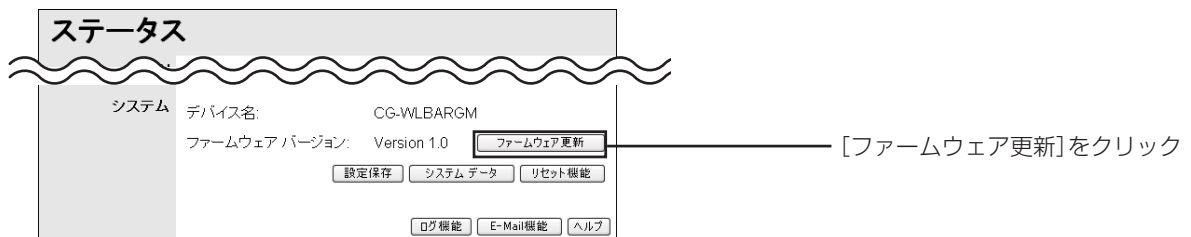
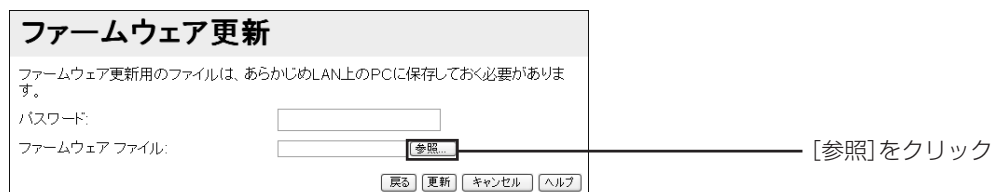
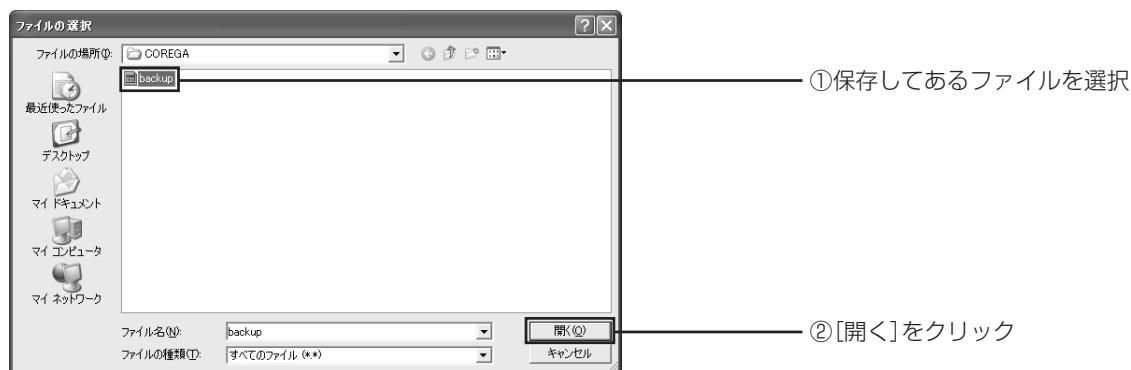
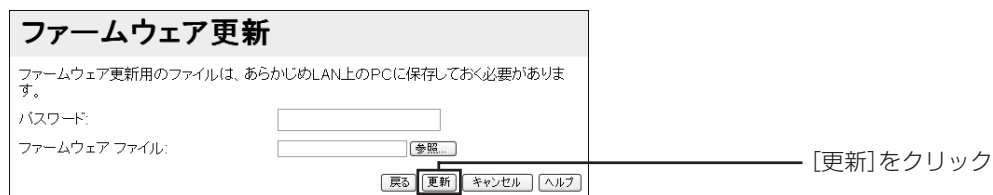
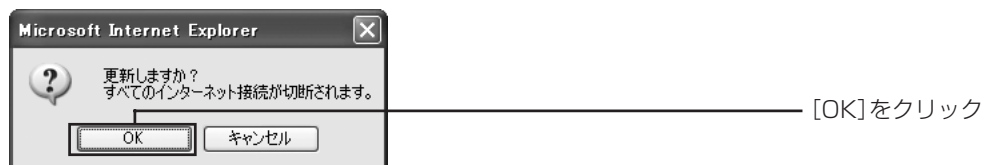
2　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

3　［設定保存］をクリックします。

4　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］をクリックします。

5　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックし、保存する場所を指定してファイルを保存します。

●元に戻す

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

3　［ファームウェア更新］をクリックします。

4　画面が表示されたら、［参照］をクリックします。

5　前ページ「本商品の設定のバックアップを取る」で保存したファイルを選択して、[開く] をクリックします。

6　[更新] をクリックします。

7　「更新しますか？　すべてのインターネット接続が切断されます。」と表示されるので、[OK] をクリックします。

8　「設定ファイルは正常に読込まれました。」と表示されるので、[OK] をクリックします。

本商品を再起動するには

本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合は、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

●初期化スイッチを使う

1　本商品の電源が入っている状態で、クリップなど堅くて先の細いものを使用し、本商品の底面にある初期化スイッチを押します。

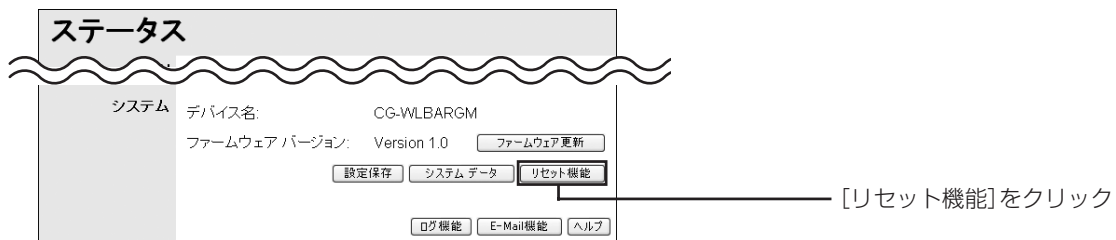
2　初期化スイッチを５秒未満で離します。

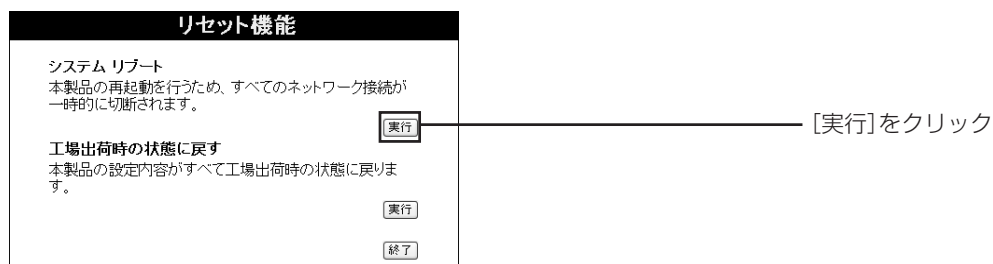
注意　**初期化スイッチを5秒以上押すと、本商品の設定が工場出荷時の状態に戻ってしまいますので、ご注意ください。**

3　しばらくするとPower LEDが点灯し、再起動が終了します。

●設定ユーティリティを使う

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

3　［リセット機能］をクリックします。

4　「リセット機能」画面で「システム リブート」の［実行］をクリックします。

5　「システムリブート行います。」と表示されるので、［OK］をクリックします。

6　下のダイアログが表示されますので、［OK］をクリックします。

本商品を工場出荷時の状態に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」（P.34）を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●初期化スイッチを使う

1　本商品の電源が入っている状態で、クリップなど堅くて先の細いものを使用し、本商品の底面にある初期化スイッチを押します。

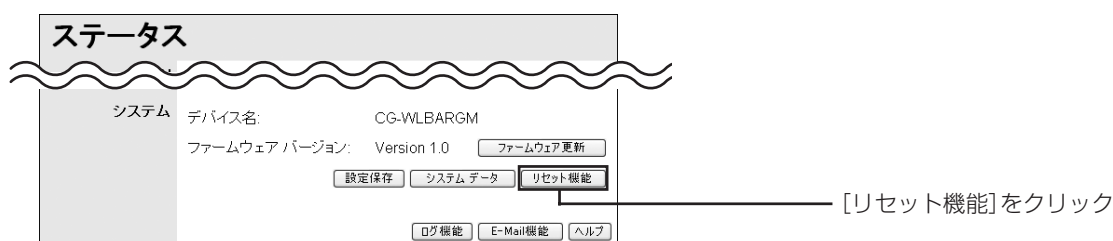
2　初期化スイッチを Power LED が点滅するまで押し、初期化スイッチを離します。

3　しばらくすると Power LED が点灯し、本商品が工場出荷状態に戻ります。

●設定ユーティリティを使う

1　「設定ユーティリティの起動方法」（P.5）をご覧になり設定ユーティリティを表示します。

2　画面左側のメニューから［Status］をクリックします。

3　［リセット機能］をクリックします。

4　「工場出荷時の状態に戻す」の［実行］をクリックします。

5　「工場出荷時の状態へ戻します」と表示されるので、［OK］をクリックします。

6　下のダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。

PART 2

設定ユーティリティを見てみよう

このPARTでは、本商品の設定ユーティリティについて説明します。本商品を使って「機能を使いこなしたい」、「設定ユーティリティの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定ユーティリティの全体構成について

設定ユーティリティの各機能

- **このPARTでの説明は、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。**
- **［ヘルプ］をクリックすると、各項目についての説明が表示されます。**
- **各設定画面の例は、PPPoE 接続の画面です。IP 自動取得（DHCP）接続や IP 固定接続では、画面が例と違う場合があります。**
- **設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］をクリックして、設定内容を保存してください。**

●CG-WLBARGM(Home)

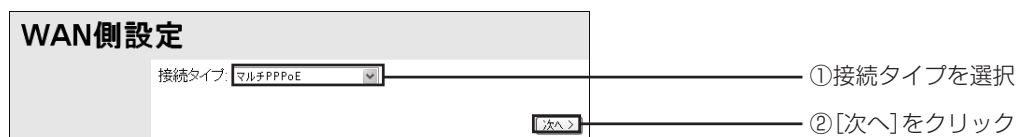
設定ユーティリティを起動した時､はじめに表示される画面です｡設定項目の全体図を表示しているメニュー（画面左側）のほか、インターネットに接続後は［ユーザー登録］、［取扱説明書］、［Q and A］を表示させることができます（画面右側）。終了時には［Logout］をクリックすると、画面を閉じることができます。

●Wizard

インターネット接続に関する設定を簡単に行うことができます。操作方法については、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

メモ　付属の「簡単ルータ接続ソフト」で表示される画面と同じものです。

●WAN(WAN側設定) ～インターネット(WAN)側の設定をする～

インターネット接続に関する詳細な設定ができます。ご契約されたプロバイダまたは回線業者の接続タイプに合わせて設定してください。「Wizard」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

通常は「Wizard」から設定を行ってください。

・DHCP を利用する場合(次ページ)

プロバイダから IP アドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。リストから「DHCP/ 固定 IP」を選択してください。

・固定 IP アドレスを利用する場合(P.44)

プロバイダから固定IPアドレスを取得している場合に選択します。リストから「DHCP/固定IP」を選択してください。各プロバイダが提供する固定IPアドレスサービスで、B フレッツやフレッツ･ADSL による接続を行う場合は、「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・PPPoE 接続を利用する場合(P.45)

PPPoE でインターネットに接続する場合に選択します。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続を利用する場合(P.47)

プロバイダから複数のWAN側のIPアドレス(グローバルIPアドレス)を取得し、PPPoE接続する場合に選択します。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

Unnumbered IP 機能とは、プロバイダから取得した複数の WAN 側の IP アドレス(グローバル IP アドレス)をパソコンに割り当てて使用することができる機能です。インターネットに公開することにより、Web サーバやメールサーバ、DNS サーバなどを運用することができます。

・マルチ PPPoE 接続を利用する場合(P.49)

PPPoE接続時に、セッションを2つ使用する場合に選択します。リストから「マルチPPPoE」を選択してください。

本商品は、1つのブロードバンド回線で、通常インターネットに接続するPPPoE接続(セッション1)とは別に、特定の接続先に他の経路(セッション2)で接続できます。これによりインターネットサービスプロバイダと接続したまま、同時にPPPoEを利用したサービスを利用することができます。

■ DHCP を利用する場合

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	IP アドレス自動取得（DHCP） DHCP機能を利用してIPアドレスを自動的に取得する場合、またはプロバイダからIPアドレスを自動的に割り当てられる場合（CATVなど）は、これを選択します。 ※「固定 IP アドレス」は、DHCP を利用するときは選択しません。 ※工場出荷時は、「IP アドレス自動取得（DHCP）」が選択されています。
④ DNS	自動取得 プロバイダよりDNSサーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合は選択します。 ※工場出荷時は、「有効」に設定されています。 優先 DNS サーバ プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。（入力例:12. 34. 56. 98） ※工場出荷時は、「自動取得」が選択されています。

※半角英数字記号…0～9、a～z、! ” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜

■固定 IP アドレスを利用する場合

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合は入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 19 文字までです。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 50 文字までです。
③ IP アドレス	固定 IP アドレス プロバイダから固定IPアドレスを割り当てられている場合（固定IPサービスなど）は選択します。 ・IP アドレス　プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 78) ・サブネットマスク　プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。(入力例:255. 255. 255. 0) ・ゲートウェイ　プロバイダから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 1) ※「IPアドレス自動取得(DHCP)」は、固定IPアドレスを利用するときは選択しません。
④ DNS	優先 DNS サーバ プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合は選択し、指定された IP アドレスを入力します。(入力例:12. 34. 56. 98) ※「自動取得」は選択できません。

※半角英数字記号…0～9、a～z、! ” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

■ PPPoE 接続を利用する場合

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	corega	「PPPoE設定」を任意の名前で登録できます。入力可能な文字は半角英数字記号で 1 ～ 19 文字(全角は 9 文字)までです。
②ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定されたユーザ名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合は、“@”から後ろもすべて入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で 1 ～25 文字までです。
④接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・ 常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・ トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合は、自動的にPPPoE接続を開始します。 ・ 手動接続：［Status］から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面の［接続］をクリックすると、PPPoE 接続を開始します。
⑤無通信タイマー	0	ＰＰＰｏＥ 接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0～99 分の間で指定してください。 ※ 0 分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥通常接続	ー	入力したユーザ名とパスワードで「セッション 1」での PPPoE 接続を行う場合は選択します。

項目名	入力例	説明
⑦自動取得	ー	通常の PPPoE 接続を行う場合は選択します。 プロバイダより DNS サーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑧優先 DNS サーバ	12.34.56.98	プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合は選択し、指定された IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は⑦の「自動取得」が選択されています。

※半角英数字記号…0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

■ Unnumbered IP 機能による PPPoE 接続を利用する場合

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	corega	「PPPoE設定」を任意の名前で登録できます。入力可能な文字は半角英数字記号で1～19文字(全角は9文字)までです。
②ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定されたユーザ名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「Bフレッツ」の場合は、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で1～25文字までです。
④接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合は、自動的に再接続します。 ・トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合は、自動的にPPPoE接続を開始します。 ・手動接続：「Status」から「詳細」ボタンをクリックして表示される「詳細情報 -PPPoE」画面で「接続」ボタンをクリックすることで、PPPoE接続を開始します。
⑤無通信タイマー	0	無通信状態になってから自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分の間で指定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥ Unnumbered IP	－	プロバイダから複数のWAN 側のIPアドレスを取得し、Unnumbered で PPPoE 接続する場合に選択します。 ※工場出荷時は、「通常接続」が選択されています。

項目名	入力例	説明
⑦IP アドレス	202.87.250.10	プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。
⑧サブネットマスク	255.255.255.248	プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。
⑨タイプ	Unnumbered IP	メニューから使用するタイプを選択します。 ・Unnumbered IP：WAN側のIPアドレスを複数使用する場合に選択します。 ・Unnumbered IP + Private：WAN 側の IP アドレスと、LAN 側の IP アドレスを同時に使用する場合に選択します。
⑩自動取得	ー	プロバイダより DNS サーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時に選択されています。
⑪優先 DNS サーバ	12.34.56.98	プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 ※工場出荷時は⑩の「自動取得」が選択されています。

※半角英数字記号…0〜9、a〜z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

Unnumbered IP による接続を行うと、リモート設定を利用しなくても、WAN 側より本商品を設定することができます。セキュリティ上、パスワードの設定（P.34）およびリモート設定（P.85）で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号の変更を行ってください。

■マルチ PPPoE 接続を利用する場合

・PPPoE サービスを提供している回線が、「B フレッツ・ベーシックタイプ」などのように、複数の接続に対応している必要があります。
・利用のための契約や登録が必要であるサービスがあります。事前にそれらを完了しておいてください。
・セッション2の接続での「登録済アプリケーション」、「スペシャルアプリケーション」のご利用はできません。

項目名	説明
①アカウント	PPPoE アカウントを登録します。本商品は 5 つの PPPoE アカウントを登録することができます。
②セッション	セッション接続を指定します。セッションごとに使用するアカウントを登録することができます。 セッション1およびセッション2は同時に複数のアカウントを選択することはできません。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント２	ＰＰＰｏＥ アカウントを変更することができます。「PPPoE設定」アカウントリストから設定内容を変更したいアカウントを選択し、②～⑯の設定を行います。 ※ 登録したPPPoEアカウントの設定には、任意の名前を付けることができます。「PPPoE 接続名」の入力欄で変更してください。
②接続指定	セッション２	「PPPoE 設定」 で選択したアカウントで使用するセッションを選択します。「接続先設定」で指定した接続先への通信を検出した場合は、セッション２を使用して接続します。それ以外の通信は、セッション１を使用して接続します。 ・ 指定なし：選択したアカウントでPPPoE接続しない場合に選択します。 ・ セッション１：通常インターネットを利用するためのプロバイダの設定をするときに選択します。 ・ セッション２ ：インターネット接続をしたまま、PPPoEを利用したサービスを利用する場合に選択します。⑯の［IPアドレス追加］、［ドメイン追加］、［ポート追加］ のいずれかをクリックして、接続先を指定します。
③ PPPoE 接続名	アカウント２	「ＰＰＰｏE 設定」 を任意の名前で登録できます。①の「PPPoE設定」アカウントリストから未設定のアカウントを選択した場合、選択したアカウント （アカウント１～５） が自動的に表示されます。
④ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された「接続ユーザー名」（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります） を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@” から後ろもすべて入力します。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で60 文字までです。大文字と小文字は区別されます。
⑤パスワード	Password02	プロバイダより指定された「接続パスワード」（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります） を入力します。パスワードは画面上では 「＊」 や 「●」 で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で25文字までです。大文字と小文字は区別されます。
⑥接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にPPPoE接続した状態になります。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガー接続：パソコンからインターネットへの接続要求があった場合は、自動的にPPPoE接続を開始します。 ・手動接続：［Status］ から ［詳細］ をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で ［接続］ をクリックするとPPPoE 接続を開始します。

項目名	入力例	説明
⑦無通信タイマ	15	無通信状態になってから自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0～99分の間で設定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑧LAN TYPE	—	ご契約のサービスにて使用する場合はチェックを付けます。
⑨IPアドレス	12.34.56.77	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたIPアドレスを入力します。
⑩サブネットマスク	255.255.255.0	⑧の「LAN TYPE」にチェックを入れたときに設定します。セッション2で接続したネットワークのグループ管理者より割り当てられたサブネットマスクを入力します。
⑪BIG UDP	ー	チェックを付けると、大きなパケットを受信できる様に設定を変更できます。
⑫自動取得	—	プロバイダからDNSサーバを自動設定するような指示があった場合は有効にします。特に指定されていない場合も、「自動取得」を選択します。
⑬マニュアル設定	—	プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定された場合は有効にします。「マニュアル設定」を有効にすると「優先DNSサーバ」と「代替DNSサーバ」の各入力欄が表示されます。
⑭優先DNSサーバ	12.34.56.78	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。
⑮代替DNSサーバ	98.76.54.32	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。 ※指定されたDNSサーバが1つの場合は、優先DNSサーバにアドレスを入力してください。3つ以上のDNSサーバアドレスを設定する場合は、3つ目以降を「Advanced」－「その他各種設定」の⑫「バックアップDNSサーバ」（P.86)に入力してください。

項目名	入力例	説明
⑯接続先設定	―	セッション2を利用して通信する特定の接続先を指定します。[IPアドレス追加]、[ドメイン追加]、[ポート追加] をクリックして表示される、それぞれの｢接続先設定｣画面で接続先を登録してください。詳しくは次ページからはじまる登録方法をご覧ください。 ※｢接続指定｣でセッション2を選択したときのみ｢有効｣になります。 ・[IPアドレス追加]：特定の接続先をIPアドレスで指定する場合にクリックします。 ・[ドメイン追加]]：特定の接続先をドメイン名で指定する場合にクリックします。 ・[ポート追加]：接続するポートを指定する場合にクリックします。 ｢フレッツ・グループアクセス｣(NTT東日本)および「フレッツ・グループ｣(NTT西日本)の提供するサービスを上で、NetBIOSを使ってWindowsのファイルを共有する場合、「NetBios有効」にチェックを付けます。

※半角英数字記号…0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

- 「フレッツ・グループアクセス」（**NTT東日本**）および「フレッツ・グループ」（**NTT西日本**）使用時に⑧の「**LAN TYPE**」を有効にすると、「リモート設定」（**P.85**）の設定をしなくても、セッション**2**の**WAN**側から本商品を設定することができます。また、**WAN**側から本商品に設定できることにより、セキュリティの問題が発生しますので、ご利用の場合は必ず本商品にパスワードを設定し（設定方法は**P.34**をご覧ください）、「リモート設定」（**P.85**）で②「リモート設定を使用する」にチェックを付けてポート番号の変更を行ってください。
- **NetBios**関連のポート（**135**、**137**、**138**、**139**、**445**、**3389**）は、「**NetBios**有効」にチェックを付けることで設定できます。なお、これらのポート番号は、手動設定できません。手動で設定を行った場合や、正しく設定されていない場合には、いったん削除してから、「**NetBios**有効」にチェックを付けて保存してください。

・「接続先設定」画面について

セッション２を利用して通信する場合の接続先を設定します。

<接続先を IP アドレスで指定する場合>

1 「接続先設定」で［IP アドレス追加］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① IP アドレス	10.20.30.40-0	セッション２で通信する接続先を IP アドレスの範囲で指定できます。接続先の IP アドレスの範囲を入力して、［追加］をクリックします。単独で IP アドレスを設定する場合は、終了アドレス（入力欄の右端）に「0」を入力してください。登録数は、ネットマスク範囲設定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているIPアドレスをクリックして反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存してください。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択も可能です。
②ネットワーク	172.25.0.0/16	セッション2で通信する接続先のネットワークアドレスとネットマスクで指定できます。接続先のネットワークアドレスとネットマスクの範囲を入力して、［追加］をクリックします。登録数は、IPアドレス範囲指定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リスト表示されているネットマスク範囲をクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存してください。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択も可能です。

2 ［終了］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

<接続先をドメイン名で指定する場合>

1 「接続先設定」で［ドメイン名追加］をクリックすると次の画面が表示されますので、設定する内容を入力し、設定終了後に［保存］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①ドメイン名	myhome	セッション2で通信する接続先のドメイン名または文字列を入力し、［追加］をクリックしてリストに登録します。登録数は最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にする場合は、リストに表示されているドメイン名をクリックし、反転表示させてから［保存］をクリックして設定内容を保存してください。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択も可能です。

2 ［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

- 「jp」のみ登録した場合は、「jp」を含むすべてのドメインを登録したことになります。
  （例）www.abcd.co.jp
  www.abcd-jp.com
  最後に「/」を入力すると文字列の終わりを示します。
  「.jp/」と登録すると、「www.abcd-jp.com/」は該当せず、「www.abcd.co.jp」のみセッション２で通信するようになります。
- 階層で接続先を登録する場合は以下のように登録してください。
- .jp/：「jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
- .co.jp/：「co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
- .xxxx.co.jp/ ：「xxxx.co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
- フレッツ・スクウェアを接続先に登録する場合は「.flets/」を登録してください。なお、フレッツ・スクウェアは「Wizard」を使って簡単に設定することができます。

＜接続先をポートで指定する場合＞

1　「接続先設定」で［ポート追加］をクリックすると次の画面が表示されますので、設定する内容を入力し、設定終了後に［保存］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①ポート	3389 - 3389	接続するポート番号を入力し、[追加]をクリックしてリストに登録します。登録数は最大10個まで登録できます。単独でポート番号を設定する場合は、開始ポート、終了ポート間に同じ数字を入力します(例:35-35)。登録した接続先を有効にする場合は、リストに表示されているポート番号をクリックし、反転表示されてから［保存］をクリックして設定内容を保存してください。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択も可能です。

2　［閉じる］をクリックして、マルチPPPoEの設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

NetBIOSが使用するポート（135、137、138、139、445、3389）は、ここで指定することはできません。指定する場所は「NetBIOS有効」（P.49の⑯）にチェックを付けることで、設定できます。誤って指定してしまった場合は、一覧からポート番号を選択し、［削除］をクリックしてポート番号を削除した後に「NetBIOS有効」にしてください。

●LAN(LAN側設定) ～パソコン(LAN)側の設定をする～

本商品に接続するLAN側の設定ができます。

項目名	入力例	説明
① IPアドレス	192. 168. 1. 1	本商品のLAN側に設定するIPアドレスを入力します。特殊な設定以外は工場出荷時の状態で使用することをおすすめします。 ※工場出荷時は、「192. 168. 1. 1」に設定されています。
②サブネットマスク	255.255.255. 0	本商品のローカル（LAN）側に設定するサブネットマスクを入力します。 ※工場出荷時は、「255. 255. 255. 0」に設定されています。
③ DHCPサーバ	―	チェックを付けると本商品のDHCP機能が有効になります。 ※工場出荷時は、「有効」に設定されています。
④開始IPアドレス	192.168. 1. 11	DHCPサーバで本商品に接続するパソコンに自動的に割り当てられるIPアドレスの開始アドレスを入力します。 ※工場出荷時は、「192. 168. 1. 11」に設定されています。
⑤終了IPアドレス	192. 168. 1. 60	DHCPサーバで本商品に接続するパソコンに自動的に割り当てられるIPアドレスの終了アドレスを入力します。 ※工場出荷時は、「192. 168. 1. 60」に設定されいます。

- ［保存］をクリックすると、本商品に設定が反映されます。本商品のDHCPサーバを利用している場合は、一度設定ユーティリティを閉じ、パソコンを再起動してください。パソコンのIPアドレスが設定変更後のLANの設定にあわせて改めて割り当てられます。
- 本商品で設定できるのはクラスCのみです。

●Wireless（アクセスポイント）～ワイヤレス機能の設定をする～

本商品のワイヤレス機能の設定ができます。

アクセスポイント

ID アクセスポイント名: XXXXXXXXXXXX ①
ESSID: corega ②
オプション チャンネル: 6 ③
802.11モード: MIMO ④
転送レート: Auto ⑤
セキュリティ: OFF [セキュリティ] ⑥
ステルスAP □ 有効にする ⑦
アクセス制限 LANアクセス制限:
◉すべての無線クライアントの接続を許可
○選択した無線クライアントのみ接続許可 [クライアントの選択] ⑧
[保存] [キャンセル] [ヘルプ]
設定が完了したら[保存]をクリック

設定を変更して［保存］をクリックすると、その時点で変更内容が本商品に反映されますので、無線接続しているパソコンは一時的にネットワークに接続できなくなります。本商品の変更を変更したら、内容にあわせて接続するパソコンの設定も変更してください。

項目名	説明
①アクセスポイント名	本商品の名称が表示されます。無線クライアント側にアクセスポイント名の表示機能がある場合は、本商品の名称がアクセスポイント名として表示されます。
② ESSID	無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。 ※ 工場出荷時は「corega」に設定されています。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）で、1～13の13種類の中から設定できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。 ※ 工場出荷時は「6」に設定されています。
④ 802.11 モード	本商品に接続できる無線 LAN 規格を選択します。 ・「MIMO」: 802.11g（MIMO 通信）か 802.11b かを自動判別します。 ・「802.11g」: 802.11g 規格で接続します。802.11g 規格対応の無線クライアントのみ接続できます。 ・「802.11b」: 802.11b 規格で接続します。無線クライアントが 802.11g に対応している場合も 802.11b として接続します。
⑤転送レート	通信速度を固定することができますが、通常は「Auto」のまま使用します。「Auto」の場合は、自動的に転送可能なレートで通信を確保します。固定レートを選択した場合は、電波状態が悪くなると通信が途切れる事があります。また、設定した転送レートを持たない無線クライアントは接続できなくなります。
⑥セキュリティ	無線LAN上で送受信する通信内容を暗号化します。設定する場合は、[セキュリティ] をクリックします（次ページ）。 ※ 工場出荷時は「OFF」に設定されています。
⑦ステルス AP	「有効にする」にチェックを付けると、アクセスポイントを検出する機能を使用しても、本商品のESSIDが表示されなくなります。これにより第三者からの不正アクセスを防止できます。
⑧アクセス制限	無線 LAN へのアクセスを制限します。設定する場合は、「選択した無線クライアントのみ接続許可」を選択し、[クライアントの選択] をクリックして「アクセス制限（無線）ー LAN」画面（P.61）で設定します。 ※ 工場出荷時は「すべての無線クライアントの接続を許可」に設定されています。

■「WEP 設定」画面

本商品に「64 Bit WEP」または「128 Bit WEP」を設定します。

1　画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

2　「アクセスポイント」画面（P.57）の［セキュリティ］をクリックします。

3　「セキュリティ方法」から「WEP」を選択し、必要な項目を設定します。

※上の画面は「64 Bit」をクリックしたときの画面表示例です。

項目名	説明
①暗号方式	「64bit」「128bit」から選択します。暗号キーの欄が「64 bit」を選ぶと10 桁、「128 bit」を選ぶと 26 桁表示されます。
②認証方式	「Open System」「Shared Key」「Automatic」から選択します。通常は、工場出荷時の「Automatic」の設定のままにします。
③キー 1 ～ 4	①で「64Bit」を選択すると 10 桁、「128Bit」を選択すると 26 桁の入力欄が表示されます。直接入力する場合は、入力するキーのラジオボタンをクリックして選択し、設定する暗号キーを①で選択した Bit 数にあわせた桁数（64Bit：10 桁、128Bit：26 桁）を、16 進数（0 ～ 9、a ～ f）で入力してください。⑤の「キーに文字列」に入力し、④の［コード生成］をクリックして暗号キーを自動的に生成することもできます。
④コード生成	クリックすると、⑤で入力した文字列をもとに、暗号コードを生成します。
⑤キー文字列	ここに入力した文字列から、WEP で使用される暗号キーがキー 1 ～ 4 のラジオボタンで選択したキーに生成されます。1 ～ 32 文字の、半角英数字(0 ～ 9、a ～ z)を入力します（大文字と小文字は区別されます）。大文字と小文字は区別されます。なお、③で直接数値を入力する場合、この欄への入力は不要です。

4　設定が終了したら［保存］をクリックします。

設定を終了して［保存］をクリックすると、その時点で変更内容が本商品に反映されますので、無線接続しているパソコンは一時的にネットワークに接続できなくなります。設定を終了したら、必ず接続するパソコンにも同様の設定を行ってください。

■「WAP-PSK 設定」画面

本商品に「WAP-PSK」の設定します。

1　画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

2　「アクセスポイント」画面（P.57）の［セキュリティ］をクリックします。

3　「セキュリティ方法」から「WPA-PSK」を選択し、必要な項目を設定します。

項目名	説明
①共有キー	共有キーは、8～63文字までの半角英数文字(0～9、a～z、！” ＃＄％ &’( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜)で入力します。
②更新時間	暗号キーを変更する秒数を設定します。入力した秒数毎に暗号キーを変更し、より強固なセキュリティをかけることができます。
③暗号方式	「TKIP」、「AES」から選択することができます。

4　設定が終了したら［保存］をクリックします。

設定を終了して［保存］をクリックすると、その時点で変更内容が本商品に反映されますので、無線接続しているパソコンは一時的にネットワークに接続できなくなります。設定を終了したら、必ず接続するパソコンにも同様の設定を行ってください。

■「WAP2-PSK 設定」画面

本商品に「WAP2-PSK」の設定します。

1　画面左側のメニューから［Wireless］をクリックします。

2　「アクセスポイント」画面（P.57）の［セキュリティ］をクリックします。

3　「セキュリティ方法」から「WPA2-PSK」を選択します。

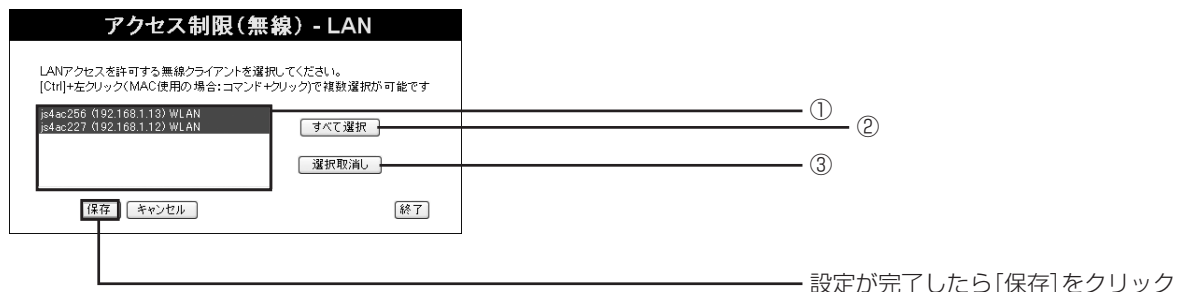
項目名	説明
①共有キー	共有キーは、8～63文字までの半角英数文字(0～9、a～z、！” ＃＄％ &’( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ {¦}˜)で入力します 。
②更新時間	暗号キーを変更する秒数を設定します。入力した秒数毎に暗号キーを変更し、より強固なセキュリティをかけることができます。
③暗号方式	「TKIP」、「AES」から選択することができます。

4　設定が終了したら［保存］をクリックします。

設定を終了して［保存］をクリックすると、その時点で変更内容が本商品に反映されますので、無線接続しているパソコンは一時的にネットワークに接続できなくなります。設定を終了したら、必ず接続するパソコンにも同様の設定を行ってください。

■「アクセス制限（無線）－ LAN」画面

無線 LAN アクセス制限を設定します。

1 「アクセスポイント」画面（P.57)のアクセス制限欄の「選択した無線クライアントのみ接続許可」を選択し、［クライアントの選択］をクリックして必要な項目を設定します。

項目名	説明
①クライアントリスト	本商品に接続しているすべての無線クライアントが自動的に表示されます。ここで選択した（反転表示になった）クライアントに対して、無線LANへの接続が許可されます。アクセスを制限したいクライアントは選択を外します（反転表示を解除します)。「Ctrl」キー＋左クリックで複数選択も可能です。
②すべて選択	リストにあるすべての無線クライアントを一括選択します。
③選択取り消し	リストにあるすべての無線クライアントの選択（反転表示）を一括解除します。

アクセス制限をしたいクライアントが表示されていない場合は、「PC データベース」で手動で追加してください。詳しくは「PCデータベース ～接続しているパソコンを表示する～」（P.80）をご覧ください。

2 設定が終了したら［保存］をクリックします。

●Password（パスワード） ～本商品の設定変更を制限する～

本商品の設定ユーティリティにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティ上、パスワードの設定してお使いください。パスワードの変更手順については、「PART1 こんなときには」の「本商品のログイン名（ユーザ名)、パスワードを変更したいときは」（P.34）をご覧ください。

- **パスワードを忘れると、設定ユーティリティで設定を変更できなくなりますので、ご注意ください。**
- **ログイン名およびパスワードで空白を設定すると認証を行わずに設定ユーティリティにアクセスすることができますが、セキュリティの問題が発生しますので空白にはしないでください。なお、初期化スイッチを使用して本商品を工場出荷時の状態に戻すと、設定したログイン名およびパスワードも初期化されます。**

●Status（ステータス） ～現在の接続状態を表示する～

インターネットへの接続状態や本商品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

項目名	説明
①接続タイプ	現在使用されている接続タイプを表示します。
②モデムの状態	本商品の WAN ポートとモデムなどの機器との接続状態を表示します。 ・「ON」: 接続されています。 ・「OFF」: 未接続です。
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ・「接続中」: 正常に動作しています。 ・「未接続」: WAN 側のネットワークと通信できていません。
④ WAN 側 IP アドレス	インターネット（WAN）側の IP アドレスを表示します。 ※ マルチ PPPoE 設定の場合、「WAN 側 IP アドレス」（セッション 1）の下にセッション 2 の IP アドレスも表示されます。
⑤ LAN 側 IP アドレス	本商品の LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑥サブネットマスク	本商品の LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑦ DHCP サーバ	本商品のDHCPサーバ機能の状態を表示します。「ON」か「OFF」のいずれかが表示されます。
⑧デバイス名	本商品の名称を表示します。
⑨ファームウェアバージョン	本商品のファームウェアのバージョンを表示します。

■ボタンについて

ボタン名	説明
再読み込み	最新の接続状態を表示したいときにクリックします。
詳細	接続状態の詳細を表示したいときにクリックします（本ページ）。
ファームウェア更新	最新のファームウェアに更新するときにクリックします。ファームウェアの更新の方法は、「PART1 こんなときには」の「最新のファームウェアを入手してアップデートするには」（P.31）をご覧ください。
設定保存	現在の設定内容をバックアップできます。設定変更後に通信できなくなったときなどに保存したバックアップファイルを使用して、設定内容を元に戻します。次の手順で設定をバックアップします。 ①［設定保存］をクリックします。 ②「ファイルのダウンロード」の［保存］をクリックします。 ③「名前を付けて保存」で保存先とファイル名を指定して［保存］をクリックします。 バックアップファイルを元に戻す方法は、「PART1　こんなときには」の「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」（P.34）をご覧ください。
システムデータ	システム情報を表示したいときにクリックします。
リセット機能	本商品を再起動する場合や工場出荷時の状態に戻すときにクリックします。詳しくは、「PART1 こんなときには」の「本商品を再起動するには」（P.36）または「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」（P.38）をご覧ください。
ログ機能	ログ機能の設定を行うときにクリックします（P.66）。
E-Mail 機能	E-Mail 機能の設定を行うときにクリックします（P.67）。

■「詳細情報」画面

インターネットへの接続状態の詳細情報が表示されます。利用する接続方式によって、表示される画面が異なります。

1 「ステータス」画面（P.62）で［詳細］をクリックします。

< DHCP ／固定 IP アドレスを利用する場合>

項目名	説明
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックすると確認できます。
② IP アドレス	本商品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本商品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。
⑦リース取得	IP アドレスを取得した日時が表示されます。 ※ 固定 IP アドレスで接続されている場合は表示されません。
⑧残りリース時間	IP アドレスが解放されるまでの残り時間が表示されます。 ※ 固定 IP アドレスで接続されている場合は表示されません。
⑨再読み込み	最新の情報を表示します。 ※ 固定 IP アドレスで接続されている場合は表示されません。
⑩解放 / 書換え	［解放］をクリックすると取得しているIPアドレスを解放し、［書換え］をクリックすると、DHCP クライアントが「ON」のときにIPアドレスを再取得します。 ※ 固定 IP アドレスで接続されている場合は表示されません。

< PPPoE 接続の場合>

項目名	説明
①接続指定	詳細を表示するセッションを「セッション 1」と「セッション 2」から選択します。マルチ PPPoE 接続を使用している場合に表示されます。
② MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システム データ］をクリックすると確認できます。
③ IP アドレス	本商品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
④サブネットマスク	本商品の WAN 側のサブネットマスクが表示されます。
⑤接続状態	現在の接続状態を表示します。 ・「ON」: 接続中です。 ・「OFF」: 未接続です。 ※「接続方法」の設定を「トリガー接続」または「手動接続」にしている場合、［接続］をクリックするとインターネットに接続できます。［切断］をクリックするとインターネット接続を切断します。
⑥接続ログ	インターネットへの接続ログが表示されます。ログメッセージの詳細は、［ヘルプ］をクリックして、ヘルプをご覧ください。
⑦ログの削除	表示されているログを削除します。
⑧再読み込み	最新のログを表示します。
⑨切断	接続状態が「ON」のときにインターネットへの接続を切断します。「接続方法」の設定を「トリガー接続」または「手動接続」にしているときに使用できます。「常時接続」に設定している場合は接続を切断されますが、すぐに再接続されます。
⑩接続	接続状態が「OFF」のときにインターネットへの接続を行います。「接続方法」の設定を「トリガー接続」または「手動接続」にしているに使用できます。

2　［終了］をクリックして「詳細情報」画面を閉じます。

■「ログ機能」画面

インターネット接続や本商品への外部からのアクセス履歴を残すことができます。

1　「ステータス」画面（P.62）から［ログ機能］をクリックします。

項目名	説明
①接続指定	「ログ機能」を設定するセッションを「セッション 1」と「セッション 2」から選択します。マルチ PPPoE 接続を使用している場合に表示されます。
②インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログを残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。
③アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。
④DoS（Denial of Service）アタック検出ログ	チェックを付けると DoS（Denial of Service）攻撃を検出したときにログを残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。

2　設定が終了したら［保存］をクリックします。

■「E-Mail 機能」画面

本商品には E-Mail によるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することで DoS（Denial of Service）攻撃が検出された時に管理者に対してログメールで通知することも可能です。

1 「ステータス」画面（P.62）から［E-Mail 機能］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①DoS アタック検出時にログを送信する	ー	チェックを付けると⑤で設定した E-Mail アドレスに DoS（Denial of Service）攻撃を検出したときのログを送信します。また、この機能を使用するには「ログ機能」画面（P.66）で「DoS（Denial of Service）アタック検出ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。
②インターネット接続ログ	ー	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログ情報を⑤で設定した E-Mail アドレスに送信します。また、この機能を使用するには「ログ機能」画面で「インターネット接続ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。
③アクセス制限ログ	ー	チェックを付けるとアクセス制限機能を使用してブロックされたログ情報を⑤で設定したE-Mailで送信します。また、この機能を使用するには、「ログ機能」画面で「アクセス制限ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。
④送信	ー	ログ情報を送信するスケジュールを設定します。ログが一杯になったときに送信する場合は「a」を選択します。曜日と時間を決めて送信する場合は「b」を選択して曜日と時間を指定します。 ※ ログ情報がいっぱいになると、設定よりも前に送信されます。
⑤送信先 E-Mail アドレス	corega@xxx.ne.jp	ログ情報の送信先（E-Mail アドレス）を設定します。 ※入力可能な文字は、半角英数字記号で32文字までです。

項目名	入力例	説明
⑥件名	Logs info	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 29 文字までです。 ※ 件名に全角文字を入れた場合、受信側で文字化けする場合があります。
⑦送信用（SMTP）サーバ	12. 34. 56. 1	プロバイダから指定されたメール送信用（SMTP）サーバのホスト名か IP アドレスを設定します。 ※ ホスト名を指定する場合、入力可能な文字は、半角の英数字記号で 50 文字までです。
⑧ポート番号	25	サーバに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ ポート番号は 1 ～ 65534 の半角数字を入力してください。 ※工場出荷時のポート番号は「25」になっています。

※半角英数字記号…0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

2　　設定が終了したら［保存］をクリックして設定を反映します。

●Advanced　～より高度な機能を設定する～

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定や不正アクセス制限の設定、バーチャル サーバの設定など、本商品のより高度な機能の設定ができます。

■アドバンスド インターネット ～ネットワークアプリケーションを利用できるようにする～

ネットワークゲームなど、ファイアウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際のポート設定を行います。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力/出力ポートが設定されています。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「アドバンスド インターネット」の順にクリックします。

※マルチPPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	説明
① 登録済 アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力/出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
② 接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」（P.80）で登録してください。
③ スペシャル アプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、［スペシャル アプリケーション］をクリックして、新しく設定します（次ページ）。
④ PPPoE 設定	DMZ 設定する場合のアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
⑤ DMZ	DMZ 機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャル アプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合にはDMZ機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZ を使用する」にチェックを入れます。 ※ DMZ を設定したパソコンは、本商品のセキュリティ機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。 ※ マルチPPPoE接続の場合は、アカウントごとに設定することができます。

2　設定が終了したら［保存］をクリックします。

・「スペシャル アプリケーション」画面

「アドバンスド インターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合には、個別に設定ができます。

1 「アドバンスド インターネット」画面（P.69）で［スペシャル アプリケーション］をクリックします。

項目名		入力例	説明
①チェックボックス		ー	利用するアプリケーションにチェックを入れます。
②名称		dialpad	ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※ 入力可能な文字数は、半角英数字記号で12文字までです。大文字は小文字に自動的に変換されます。
③出力ポート番号	タイプ	udp	出力ポートのプロトコルタイプを選択します。パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ ポート番号には 1 〜 65534 の半角数字を入力してください。
	開始	51200	
	終了	51201	
④入力ポート番号	タイプ	udp	入力ポートのプロトコルタイプを選択します。パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ ポート番号には 1 〜 65534 の半角数字を入力してください。
	開始	51200	
	終了	51201	

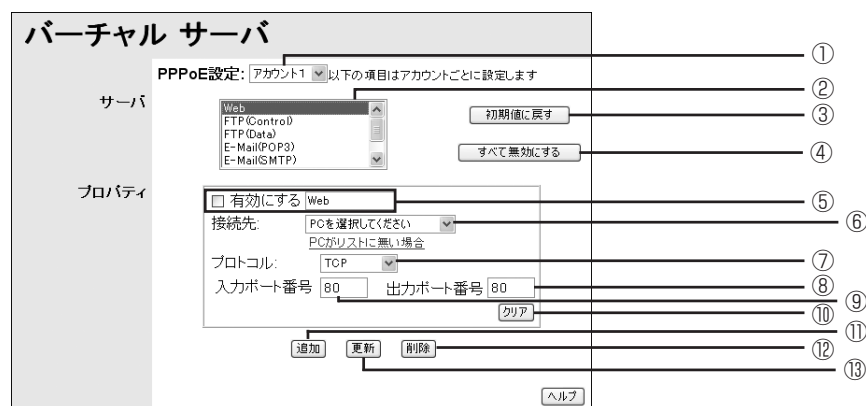
※半角英数字記号… 0〜9、a〜z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

・アプリケーションのポートなどの設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。
・スペシャル アプリケーションを使用できるパソコンは、それぞれ１台のみです。

2 設定が終了したら［保存］をクリックします。

■バーチャル サーバ　～インターネット上にサーバを公開する～

インターネット（WAN側）から本商品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバを公開できます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「バーチャル サーバ」の順にクリックします。

項目名	入力例	説明
① PPPoE設定	アカウント1	バーチャル サーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチPPPoE接続の場合のみ表示されます。
②サーバ	Web	利用したいサーバを選択します。
③初期値に戻す	ー	選択したバーチャル サーバの設定を初期設定に戻します。
④全て無効にする	ー	一覧に表示されているすべてのバーチャル サーバを無効にします。
⑤有効にする	Web	②の一覧からサーバの種類を選択後、ここにチェックを付けて⑬の［更新］をクリックするとバーチャル サーバが有効になります。一覧に接続したサーバの種類がない場合は、ここにサーバ名を入力して⑥～⑨の設定を行い、⑪の［追加］、⑬の［更新］をクリックすることで有効になります。 ※工場出荷時は「無効」になっています（チェックは入っていません)。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で16文字までです。
⑥接続先	ー	バーチャル サーバにするパソコンを選択します。サーバにするパソコンがリストにない場合は、「PCデータベース」（P.80）で登録してください。
⑦プロトコル	TCP	開放するプロトコルのタイプを選択します。
⑧出力ポート番号	80	インターネット側からサーバに接続するためのポート番号を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
⑨入力ポート番号	80	サーバソフトが使用するポート番号を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。

※半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

項目名	入力例	説明
⑩クリア	ー	クリックすると内容をクリアします。
⑪追加	ー	設定したバーチャル サーバを②のサーバー覧に追加します。 ※ あらかじめ登録されているサーバ名は使用できません。
⑫削除	ー	②の一覧で選択したバーチャル サーバを削除します。 ※あらかじめ登録されているサーバ名は削除できません。
⑬更新	ー	クリックすると設定内容を更新します。

登録可能なサーバ数は 40 です。

■ダイナミック DNS（DDNS）～バーチャル サーバに URL でアクセスできるようにする～

インターネット上から IP アドレスではなく URL を指定して LAN 内のバーチャル サーバに接続できるようにします。ダイナミック IP アドレスのような IP アドレスが固定されないサービスでも、URL を指定してアクセスすることが可能です。ダイナミック DNS は次の手順で設定します。

1　無料または有料サービスを提供しているダイナミックDNSのWebサイトで登録手続きをします。インターネットに接続できれば本商品から登録することができます(ここでは、例として「http://www.dyndns.org」に登録しています)。　登録が完了すると、登録情報が E-Mail で送信されます。

本商品が対応するダイナミック DNS サービスは、「DynDNS」、「IvyNetwork」、「@Net DNS」の 3 つのみです。

2　画面左側のメニューから［Advanced］－「ダイナミック DNS」の順にクリックし、「DNS サーバ欄」にある各入力欄にダイナミック DNS サービスから受信した登録情報を入力します。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	ダイナミックDNS機能を利用してバーチャル サーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DDNS サービス	ー	登録したダイナミックDNSのサービス名を選択します。
③ユーザ名	corega	ダイナミック DNS サービスの Web サイトで登録したユーザ名を入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 15 文字までです。
④パスワード	Password 02	ダイナミック DNS の Web サイトで登録したパスワードを入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角の英数字記号で 15 文字です。入力したパスワードは画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないようにご注意ください。
⑤ドメイン名	corega	ダイナミック DNS の Web サイトで登録した希望のドメイン名を入力してください。 ※ 一度取得したドメイン名は本商品から変更できません。ドメイン名を変更する必要があれば、ダイナミック DNS の Web サイトでアカウントを終了し、その後、新たに登録をしなおしてください。 ※ 使用可能な文字は、半角英数字記号で、左側の入力欄は 24 文字以内、中央の入力欄は 16 文字以内、右側の入力欄は 4 文字以内で入力してください。
⑥ DDNS ステータス	ー	ダイナミックDNSサーバからのメッセージを表示します。

※半角英数字記号… 0〜9、a〜z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

3　設定が終了したら［保存］をクリックします。設定を保存すると、本商品はその時点で使用している IP アドレスを自動的に記録しますので、「DDNS ステータス」欄で希望のドメイン名が取得できたかどうか確認してください。設定に問題がなければ、ダイナミック DNS を使用してバーチャル サーバなどへの接続が可能となります。

「DynDNS」、「IvyNetwork」の登録手順の詳しい解説をホームページからご覧になることができます。弊社ホームページ（http://corega.co.jp/）から「製品情報」ー「導入ナビゲーション」の順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください。

「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@ Net DDNS」が運営するダイナミック DNS サービスについては、弊社サポートの対象外となりますので、登録はお客様の自己責任で行うよう、あらかじめご了承ください。

■アクセス制限　～パソコンのアクセスを制限する～

ローカル（LAN）側に接続されているパソコンからインターネット（WAN）側へのアクセスを制御します。
アクセス制限は、グループごとに設定できます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「アクセス制限」の順にクリックします。

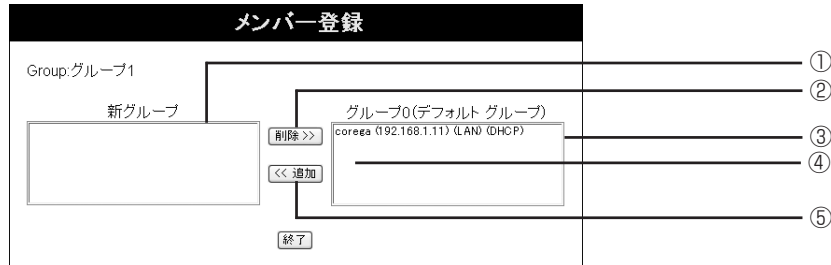
※マルチPPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	入力例	説明
①グループ選択	グループ0	アクセス制限をするグループを選択します。 ※工場出荷時は「グループ0」になっています。
②メンバー登録	ー	グループ0以外のグループのメンバーを編集できます（次ページ）。
③PPPoE設定	アカウント1	インターネット（WAN）側へアクセスするアカウントを選択します。マルチPPPoE接続の場合のみ表示されます。
④アクセス制限	なし	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ・「なし」：アクセスは制限されません。 ・「全てのサービス」：全てのサービスがアクセス制限されます。 ・「選択したサービス」：「サービス」で選択したサービスのみ、アクセス制限されます。 ※工場出荷時は「なし」に設定されています。
⑤スケジュール設定	ー	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます（P.76）。
⑥スケジュール	なし	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。 ※工場出荷時は「なし」に設定されています。
⑦サービス	ー	アクセス制限をしたいサービスを選択します。
⑧サービスの編集	ー	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます（P.77）。
⑨ログ情報	ー	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑩ログの削除	ー	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

2　設定が完了したら［保存］をクリックします。

・「メンバー登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1 「アクセス制限」画面（P.74）から 「グループ選択」で「グループ 0」以外のグループを選択し、［メンバー登録］をクリックします。

項目名	説明
①新グループ	選択したグループのメンバーを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②削除	選択したメンバーを新グループから削除します。
③グループ 0	デフォルトメンバーを表示します。本商品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。
④追加	選択したメンバーを新グループに追加します。

2 設定が終了したら［終了］をクリックします。

・グループ0に表示されているパソコンは、本商品が認識しているパソコンの一覧ですので、新グループに追加しても、一覧から削除されません。また、1つのパソコンを異なるグループ（グループ 0 を除く）に重複して登録することはできません。
・登録可能なパソコンは最大 50 台です。

・「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定できます。

1　「アクセス制限」画面（P.74）から「アクセス制限」画面で［スケジュール設定］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①スケジュール 1、スケジュール 2	ー	アクセス制限をする時間帯を選択します。1 日のうちで、2 つの時間帯を設定できます。
②開始、終了	00:00、06:00	アクセス制限の開始時間と終了時間を入力します。

2　設定が終了したら［保存］をクリックして設定を保存し、［終了］をクリックします。

・「サービス」画面

アクセス制限をするサービスの追加、削除を行います。

1 「アクセス制限」画面（P.74）から「アクセス制限」画面で［サービスの編集］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①登録済みサービス	ー	登録済みのサービスの一覧を表示します。削除したいサービスを選択し、[削除] をクリックすると、選択したサービスが削除されます。
②サービス名	HTTP	追加登録するサービス名を入力します。 ※ 入力可能な文字は、半角英数字記号で12文字までです。
③タイプ	TCP	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。
⑤終了ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。
⑥ ICMP タイプ	ー	③の「タイプ」で「ICMP」を選択した場合に入力します。

※半角英数字記号… 0〜9、a〜z、! ” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

- **アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。入力例の場合、HTTP は 80 番ポートなので、開始ポート番号に「80」、終了ポート番号に「80」と入力します。**
- **登録済みのサービス数は 40 です。サービスの追加可能数は 30 です。**

2 サービスを追加する場合は、［追加］をクリックすると「登録済みサービス」にサービスが追加されます。サービスを削除する場合は、表の①の手順を行います。

3 設定が終了したら［終了］をクリックします。

■セキュリティ　～外部からの不正なアクセスを防ぐ～

不正アクセスなどの対する本商品のセキュリティを設定します。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「セキュリティ」の順にクリックします。

※マルチPPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	説明
① PPPoE 設定	セキュリティ機能を設定するアカウント（接続先）を選択します。マルチPPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DoS（Denial of Service）ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS（Denial of Service）攻撃への防御ができます。 ※ 工場出荷時は「有効」に設定されています。通常はこのまま使用することをおすすめします。
③しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。 ※工場出荷時は「高」に設定されています。
④ URL フィルタを使用する	有効にすると、指定した URL への接続を制限します。 ※ 工場出荷時は「有効」になっていますが、「URL フィルタの設定」には何も登録されていないため、URL のフィルタリングはされません。
⑤ URL フィルタの設定	「URL フィルタ」画面が表示されます（次ページ）。接続制限をする URL を設定します。
⑥ ICMP に返答する	本商品にpingコマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「無効（返答しない）」に設定されています。
⑦ IPsec を許可する	IPsec を使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（IPsecのパススルーが可能）」に設定されています。
⑧ PPTP を許可する	PPTP を使用し、VPN (Virtual Private Networking) のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（PPTPのパススルーが可能）」に設定されています。
⑨ L2TP を許可する	L2TP を使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（L2TPのパススルーが可能）」に設定されています。

2　設定が終了したら［保存］をクリックします。

・「URL フィルタ」画面

接続を制限する URL の追加と削除ができます。

1 「セキュリティ」画面（P.78）から［URL フィルタの設定］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①フィルタリスト	ー	接続制限をする URL のリストが表示されます。
②削除	ー	選択した URL を削除します。
③全て削除	ー	フィルタリストに登録されている URL をすべて削除します。
④ URL の追加	http://www.cd.xx.jp	接続制限をしたいURL を入力し、［追加］をクリックすると、フィルタリストに URL が追加されます。文字列（例 : violence）を入力すると、その文字列を含むURL がアクセス制限されます。 ※ 入力可能な文字は、半角英数字記号で72文字までです。

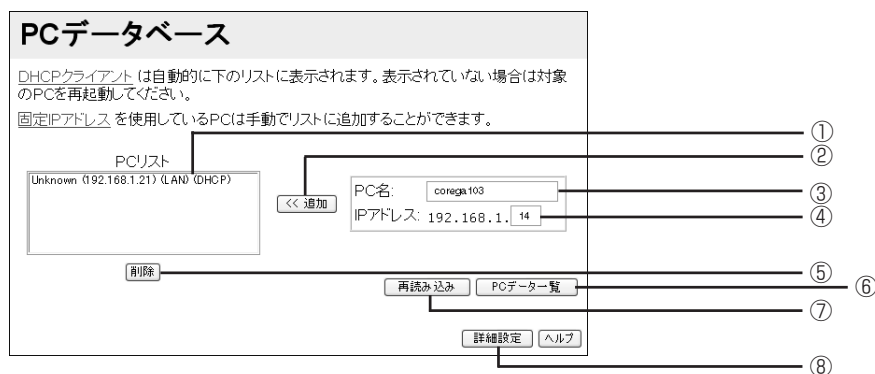
※半角英数字記号… 0～9、a～z、- . @

- **登録可能な URL の数は 50 です。**
- **URL を登録した場合、「http://」は省略されてフィルタリストに表示されます。**

2 設定が終了したら［終了］をクリックします。

■ PC データベース　～接続しているパソコンを表示する～

本商品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN上のパソコンや固定IPアドレスの情報を管理できます。「DHCP クライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。 固定IP アドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。バーチャル サーバやDMZなどを固定IPアドレスのパソコンで設定する際は、かならずPC リストに手動で登録してください。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「PC データベース」の順にクリックします。

項目名	入力例	説明
① PC リスト	―	現在、接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※ DHCPクライアントは、自動的にPCリストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。固定 IP アドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※ 本商品に無線で接続しているパソコンは、PC リスト中で「WLAN」と表示されます。
②追加	―	③と④で入力したパソコン名とIPアドレスをPCリストに追加します。
③ PC 名	corega103	PC リストに追加するパソコンの名称を入力します。 ※ 入力可能な文字は半角英数字記号で 15 文字までです。
④ IP アドレス	192.168.1.14	PCリストに追加するパソコンのIPアドレスを入力します。
⑤削除	―	PC リストから選択したパソコンを削除します。
⑥ PC データ一覧	―	PC データベースの詳しい情報を表示します。
⑦再読み込み	―	PC リストを更新します。
⑧詳細設定	―	PC データの詳細設定を行います（次ページ）。

※半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

・「PC データベース（詳細設定)」画面

本商品に接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

1 「PC データベース」画面（P.80）から［詳細設定］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PC リスト	ー	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※本商品に無線で接続しているパソコンは、PC リスト中で「WLAN」と表示されます。
②修正	ー	PC リストから設定を変更したいパソコンを選択し［修正］をクリックすると「PC データ」にパソコンのデータが表示されます。
③削除	ー	PC リストから削除したいパソコンを選択し［削除］をクリックすると「PC リスト」からパソコンが削除されます。
④パソコン名	corega103	パソコンのコンピュータ名と同じ名前を入力します。 ※入力可能な文字は半角英数字記号で 15 文字までです。

項目名		入力例	説明
⑤IPアドレス	自動取得（DHCPクライアント）	ー	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本商品が自動的に割り当てます。
	固定取得（DHCPクライアント）	192. 168. 1. 14	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合でも、指定したパソコンに毎回同じIPアドレスを割り当てます。 ※割り当てるIPアドレスは、「LAN」（P.59）で設定しているIPアドレスの範囲になります。
	固定設定（DHCP範囲以外）	ー	パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択し、IPアドレスを入力します。
⑥MACアドレス	「自動検索」	ー	パソコンがLANに接続されている場合に、本商品が自動的にパソコンのMACアドレスを検索する設定にする場合に選択します。
	「MACアドレスは」	ー	パソコンのMACアドレスを直接設定する場合に選択し、MACアドレスを入力します。
⑦PCデータ追加		ー	PCデータを入力したパソコンをPCリストに追加します。
⑧PCデータ更新		ー	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑨データの削除		ー	選択したパソコンのデータベースを削除します。
⑩再読み込み		ー	PCデータベースの表示を更新します。
⑪PCデーター覧		ー	エントリー可能なPCデータを一覧表示します。

※半角英数字記号… 0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜

「PCデーター覧」に登録可能なパソコン数は50です。

■ルーティング　～ルーティングテーブルを設定する～

LAN 上に他のルーターまたはゲートウェイがある場合は、ここでルーティングの設定ができます。通常はRIP を使用することをおすすめします。

スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

1　画面左側のメニューから［Advanced］－「ルーティング」の順にクリックします。

項目名	入力例	説明
① RIP V1 を 使用する	－	本商品で RIP を有効にするかどうかを選択します。本商品では RIP V1 のみをサポートしています。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。 ※ LOCAL OFFICEの場合は表示されません（使用できません）。
②保存	－	①の設定を保存します（スタティック ルーティングテーブルには変更はありません）。
③スタティックルーティングテーブル	－	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先 ネットワーク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する場合に接続先ネットワークの IP アドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	255.255.255.0	スタティックルーティングテーブルを設定する場合に接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
⑥ゲートウェイ	192.168.1.1	スタティックルーティングテーブルを設定する場合に接続先と通信するために使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。
⑦メトリック	2	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルータの数です。2 ～ 15 の間で設定してください。
⑧クリア	－	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑨追加	－	「詳細内容」欄の入力内容をスタティックルーティングテーブルに追加します。

項目名	入力例	説明
⑩削除	ー	③で選択したスタティック ルーティング テーブルを削除します。
⑪更新	ー	「詳細内容」欄の設定内容でスタティック ルーティング テーブルを更新します。
⑫レポート	ー	設定されているすべてのスタティック ルーティング テーブルのリストを表示します。

・本商品の RIP は LAN 側のみとなります。
・登録可能なルーティングテーブル数は 20 です。

2　表の①を設定した場合は［保存］をクリックした後に［更新］をクリックします。ほかの設定をした場合は［追加］をクリックした後に［更新］をクリックします。

■リモート設定　～インターネット上から本商品の設定をする～

本商品をインターネット経由で設定できるようにします。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「リモート設定」の順にクリックします。

※マルチPPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	入力例	説明
①PPPoE 設定	アカウント 1	リモート設定を行うアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②リモート設定を使用する	ー	チェックを付けるとインターネット側（WAN 側）から本商品の設定することができます。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。
③ポート番号	8080	インターネット（WAN）側から本商品にアクセスする場合のポート番号を指定します。1～65534の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は「8080」に設定されています。
④本商品に接続するための IP アドレス	ー	インターネット（WAN）側から本商品の設定をする場合に指定する IP アドレスが表示されます。 ※本商品に接続するための IP アドレスは、本商品の WAN 側 IP アドレスになります。

2　設定が終了したら［保存］をクリックします。

- **インターネット（WAN）側から本商品にアクセスする場合、接続する前に必ず本商品のWAN側 IP アドレスを確認してください。**
- **「リモート設定を使用する」を有効に設定した場合、第三者からの不正アクセスやインターネット上への情報の漏洩などが考えられます。リモート設定を使用していないときは、「無効」に設定することをおすすめします。**

インターネット（WAN）側から接続する際は、次の例のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。

http:// 本商品の WAN 側 IP アドレス:ポート番号

■その他各種設定

本商品の時刻の設定や、IPv6、UPnP などの設定ができます。

1　画面左側のメニューから［Advanced］ー「その他各種設定」の順にクリックします。

＜マルチ PPPoE 接続時＞

その他各種設定
時間設定 ◎自動設定 ○手動設定 ①
ダイレクトPPPoE ☑ダイレクトPPPoEを許可する ②
IPv6 ブリッジ ☑ IPv6 ブリッジを有効にする ③
UPnP ◎アプリケーションでWAN側IPを選択する ④
○WAN側IPのセッションを選択する ⑤
PPPoE設定: アカウント1 ⑥
以下の項目はアカウントごとに設定します
☑UPnPを使用する ⑦
□WAN側の切断機能を有効にする ⑧
MTU MTUを変更する: 1454 (1 - 1500)バイト ⑪
PPPoE接続時のみ使用できます
バックアップDNS バックアップDNSサーバ1: 12 34 56 99 ⑫
バックアップDNSサーバ2:
このDNSはWAN側設定で指定したDNSが無効のときのみ使用されます。
保存 キャンセル ヘルプ

＜マルチ PPPoE 以外での接続時＞

その他各種設定
時間設定 ◎自動設定 ○手動設定 ①
ダイレクトPPPoE ☑ダイレクトPPPoEを許可する ②
IPv6 ブリッジ ☑ IPv6 ブリッジを有効にする ③
UPnP ☑UPnP を有効にする ⑨
☑UPnPを使って本製品の設定を変更する ⑩
□WAN側の切断機能を有効にする ⑧
MTU MTUを変更する: 1454 (1 - 1500)バイト ⑪
PPPoE接続時のみ使用できます
バックアップDNS バックアップDNSサーバ1: 12 34 56 99 ⑫
バックアップDNSサーバ2:
このDNSはWAN側設定で指定したDNSが無効のときのみ使用されます。
保存 キャンセル ヘルプ

項目名	入力例	説明
①時間指定	―	本商品の内蔵時計を設定します。 ・ 自動設定:NTP サーバに接続し、自動的に時刻の設定を行います。 ・ 手動設定:手動で設定するときに選択し、入力欄に入力します。
②ダイレクト PPPoE を許可する	―	チェックを付けると、本商品の PPPoE 接続機能を使わずに、接続しているパソコンから PPPoE 接続ツールを使用して接続することができます。
③IPv6 ブリッジを有効にする	―	チェックを付けると、IPv6 での接続が有効になります。
④アプリケーションで WAN 側 IP を使用する	―	UPnP（Universal Plug and Play）対応アプリケーションでWAN側IPアドレスを選択する場合に使用します。　マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。

項目名	入力例	説明
⑤WAN 側 IP	ー	手動でUPnPを使用するセッションを選択する場合に使用します。マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。
⑥PPPoE 設定	アカウント 1	UPnP 設定を行うアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続時のみ表示されます。
⑦UPnP を使用する	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用できます。マルチPPPoE 接続時のみ表示されます。
⑧WAN 側の切断機能を有効にする	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用してWAN（インターネット）を切断することができます。 ※工場出荷時は「無効」に設定されています。
⑨UPnP を有効にする	ー	UPnP 機能によって自動的にLAN に接続された装置を検出し認識します。UPnP 機能は、Windows XP でご使用になれます。マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。
⑩UPnP を使って本商品の設定を変更する	ー	チェックを付けると、UPnP 機能を使用して、本商品の設定を変更することができます。チェックを外すと、UPnP機能を使用した本商品の設定変更はできなくなります。 マルチ PPPoE 接続時は、表示されません。
⑪MTU を変更するを有効にする	1454	MTUの値を変更します。PPPoE接続の場合のみ、設定できます。通常はリモートサーバから自動的に設定されます。プロバイダから指示があったときのみ変更してください。1〜1500の間で設定してください。フレッツ･ADSL に接続した場合には、自動的に「1454」に設定されます。 ※ 工場出荷時の設定値は「1454」に設定されています。
⑫バックアップ DNS	12. 34. 56. 99	DNS（ドメインネーム サーバ）の IP アドレスを入力します。優先 DNS サーバが利用できない場合に、ここで入力した DNS サーバが使用されます。プロバイダに指定された場合に入力してください。指定されない場合は空欄にしてください。

2　設定が終了したら［保存］をクリックします。

マルチ PPPoE 接続時は、表⑦の「UPnP を使用する」以降の設定項目をアカウントごとに設定することができます。

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSLモデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）のMACアドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品のMACアドレスは本体底面に記載されております。
LAN側のMACアドレスについては、設定ユーティリティの［Status（ステータス）］ー［システムデータ］の順で表示される画面（P.62）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。国内外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

2006年8月　初版
2006年11月　第二版